

## 和仏法律学校講義録

著者	梅 謙次郎, 田代 律雄, 豊島 直通
出版者	和佛法律學校
巻	2-20
ページ	1-66
発行年	1903-08-26
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10114/5467">http://hdl.handle.net/10114/5467</a>

昭和三十一年八月二十六日發行

三十六年度 第二學年ノ二十

和佛法律學子校講義錄

第七編六頁

和佛法律學校



# 第二學年第二十號目次

民法債權 第二卷 (自四一〇)

法學博士 梅 謙次 郎

民法債權 自第三章 (自二七四)

法學士 田 代 律 雄

刑事訴訟法 (自六八九)

法學士 豐 島 直 通

英 國 及 日 本 一 四 頁

雜 報 ○外國貿易月表抄

(正誤) 第十八號附錄第二一五頁十三行「至」ノ次ニ「」ヲ加シ「至」ヲ改メ「至」ニ「」ヲ加ス

090  
1903  
2-1-20

ト是レ對話者ニ對シテ用ヒタル文字ナルカ故ニ此ノ如ク嚴正ナル意義ニ解スルコトヲ得ス殊ニ土地ヲ隔ツル者ハ皆隔地者ナリト曰ハシニハ隔地者ニ非サル場合殆ト絶無ナルヘシ何トナレハ甲乙相對シテ談話ヲ爲ス場合ニ於テモ必ス多少ノ土地ヲ隔ツルモノニシテ雙方ノ身體密接シテ餘地ヲ存セサルカ如キハ事實ニ於テ殆トアルヘカラス而シテ距離一間アルモ嚴格ニ言ヘハ土地ヲ隔ツルモノニシテ半間ノ場合モ亦然リト謂ハサルヘカラスレハナリ故ニ對話者ト隔地者トノ異ナル所ハ土地ヲ隔ツルト否トニ非スシテ當事者雙方ノ談話力互ニ相聞ユル場合ハ對話者ニシテ之ニ反シ中介者ヲ用フルニ非サレハ雙方ノ意思ヲ互ニ通スルコト能ハサル場合ハ隔地者ナリト解セサルヘカラス而シテ民法ニハ「隔地者」ナル文字ヲ使用セルモ「對話者」ナル文字ヲ使用セサルカ故ニ或ハ異論ヲ生センコトヲ虞リ外國ノ立法例ニ倣ヒ電話ニ關スル規定ヲ置カンコトヲ發議セシ者アリシモ事頗ル細目ニ涉ルノミナラス大抵常識ヲ以テ適當ノ解釋ヲ爲スコトヲ得ヘシトノ理由ニ因リ遂ニ之ヲ置カサルコトトモ然レトモ商法ニハ「對話者」ナル文字ヲ用ヒタルカ故ニ隔地者ノ意義判明シ隔地者「トハ

090  
1903  
2-1-20

電話ノ利用。電話者、對面使用ニテ文字ヲ用フ故ニ此ヲ如ク嚴正ナル意義ニ解スルコトヲ得ス。殊ニ土地ヲ隔テ居ル者ハ、普通隔地者ナリト曰ハシムルハ、隔地者ニ非テ、場合殆ト絶無ナリ。何トナレハ、甲乙相對シテ談話ヲ爲ス場合ニ於テハ、必ず多少ノ土地ヲ隔ツルモノニシテ、雙方ノ身體密接シテ餘地ヲ存セサルカ如クハ事實ニ於テ殆トアルカラス。而シテ距離一聞アルハ、嚴格ニ言ヘハ土地ヲ隔ツルモノニシテ半間ノ場合モ亦然リト謂フサルヘカラスレハナリ。故ニ對話者ト隔地者トヲ異ナル所ハ土地ヲ隔ツルト否トニ非スシテ、當事者雙方ノ談話力互ニ相關スル場合ハ對話者ニシテ之ニ反シテ中介者ヲ用フルハ、非テハ、雙方ノ意思ヲ互ニ通達スルコト能ハサル場合ハ、隔地者ナリト解セサルハ、誤ラシク而シテ民法ニハ「隔地者」ノ文字ヲ使用セラルモ、對話者ナル文字ヲ使用セラルカ故ニ或ハ異論ヲ生センコトヲ虞リ外國ノ立法例ニ倣ヒ電話ニ關スル規定ヲ置カシムルヲ發議セシ者アリ。然レモ事頗ル細目ニ涉ルヲミナラズ大抵常識ヲ以テ適當ニ解釋スル爲スコトヲ得。然レモ理由ニ因リ、定ニ之ヲ置カサルコトヲ欲セシ者然レモ電商法ニハ「對話者」ノ文字ヲ用ヒタルカ故ニ隔地者ノ意義判明シ「隔地者」トハ



對話者ニ非テ所爲スル期ヲモ在ルコト毫モ疑ハズ其意ヲ示シテ即チ商法第  
二百六十九條ニハ對話者間ノ契約ノ成立アリ而シテ第二百七十條ニハ隔地者  
間ノ契約ノ規定アリ此二個ノ規定ヲ相對照セハ其意義自ラ判然スルモ且實際  
上電話ノ場合ニ於テハ一方ノ聲カ他ノ一方ノ耳ニ達スルハ其聲ヲ發シタル時  
ト殆ト同時ニシテ時トシテハ言語互ニ明晰ヲ缺キ相反問スルコトアリト雖モ  
是レ相面シテ談話スル場合ニ於テモ屢見所ニシテ必ズモ電話ノ場合ニ於  
テノミ然ルモ又ラス故ニ電話ハ普通ノ對話ニ比シ唯聽官ノ鈍者ト對話スル  
カ如キ差異アルニ過キス隨テ其聲ヲ發シタル時ト其聲ノ先方ニ達シタル時ト  
ヲ區別シ契約成立ノ時期ヲ爭フカ如キ場合ヲ生スルコトナレバ此ニ從テ  
上述ノ如ク對話者ノ場合ニ於テハ契約成立時期ノ問題ヲ生セアルカ故ニ本問  
ハ結局隔地者ノ契約ニ付タノミ生スルモノトモ蓋シ隔地者間ノ意思表示ノ問  
題ハ古來有名アル問題ノ一ニシテ近來ノ法典ニ於テハ漸次之ニ關スル規定ヲ  
置クニ至レリト雖モ當時ノ法典ニハ概テ明文ヲ存セザリシ爲メ頗ル疑ハレキ  
問題トシテ學說判例其區區ト爲レリ而シテ契約ニ關シ隔地者間ノ意思表示

ノ問題ヲ生スルハ畢竟承諾ノ意思表示ニ付テ之ヲ見ルモノニシテ之ヲ具體的  
ニ言ヘハ契約ノ成立時期ニ關スル問題ナリ何トガレハ我民法ハ契約ニ承諾  
因リテ成立スルモノトセルカ故ニ承諾成立ノ時期ハ即チ契約成立ノ時期ナレ  
ハナリ今本問ニ關スル主義ヲ大別スレバ發信主義受信主義及ヒ丁知主義ノ三  
アリ而シテ余ハ夙ニ發信主義ノ學理上最も正當ヲ得タルコトヲ信スル者ナリ  
蓋シ意思表示ナルモノハ表意者ノ意思ヲ表意者自ラ表示スルモノナルコトハ  
言フヲ缺タサル所ニシテ代理ノ場合ニ於テモ代理人ハ自己ノ意思ヲ自ラ表示  
スルモノナルカ故ニ等シク表意者ノ意思ヲ表意者自ラ表示スルモノナリ果シ  
テ然ラハ表意者カ其意思ヲ表示スルニ付キ爲スヘキ事項即チ表意者ノ行爲ヲ  
完了シタルトキハ意思表示ハ當然成立スヘキ他人カ之ヲ知リ若クハ其通知ヲ  
受取ルカ如キハ意思表示其物ト全ク別異ノ事項ニシテ常ニ意思表示アリト後  
ニ生スル事實ナリ故ニ意思表示ハ表意者ノ行爲ニ屬スル事項カ完了シタルト  
キハ必ズ成立セタルヘカラサルモノナリト信ス而シテ表意者ノ行爲ニ隔地者  
間ノ意思表示ニ在リテハ發信ノ時ニ了ナルモノトス例ヘハ郵便ニ依リテ意思

表示ヲ爲ス場合ニ於テハ書面ヲ郵便ニ投入スルモノハ未だ表意者ノ行爲ヲ了スルモノニ非ズ投函シタル以上ハ其行爲ヲ了スルモノニ非ズ此ノ點ハ先方ニ送達スルモノ郵便ニ稱スルモノハ交通機關ノ司ル所ナリ隨テ其書面ヲ實際先方ニ到達スルト否トハ發信者ノ與リ知所ニ非ズ隨テ換付ヲ爲シ契約ノ如ク相手方アル意思表示ニ之ヲ相手方ニ知ラシムル必要ナル方法ニ依リ自己ノ意思ヲ發表スルニ足ルモノニ非ズ書面ヲ郵便ニ付送スル如キ最モ普通ノ方法ナリト謂ハサルハ亦ラズ此他契約ノ特ニ重要ナル場合又ハ相手方ニ住所ノ近地ナル場合ニ在リテハ時トシテ使者ヲ以テ之ヲ親手トシ此ノ場合ニ於テハ使者ノ出發スルニ因リテ意思表示成立シ又電信ヲ以テ之ヲ親手トシ此ノ場合ニ於テハ通信文ヲ認メ之ヲ電信局ニ提出スルニ因リテ表意者ノ行爲ヲ了スルモノニトス然ルニ反對論者ハ曰ク書面ヲ郵便又ハ使者ニ付送スルモノハ電信ノ發シタルトキハ通常先方ニ到達スルモノニ非ズ故ニ表意者ノ行爲未ダ了スルモノニトスハ實際ニ於テハ往往到達スルモノトナリ故ニ實際先方ニ到達スルモノニ非ズレハ表意者ノ其行爲ヲ了スルモノニ非ズレハ謂フヘカラズト即チ此見解

ヲレテ所謂受信主義ハ發信主義ノ一種ナリトス然レバ左明國ノ國說ニ於テハホ一步進ミタル反對論者ハ先方ニ於テ意思表示ヲ知ラシムル必要トシ對話者間ニ於テモ一方ノ言語ヲ他一方ノ耳ヲ通シテ始メテ意思表示成立スルト同シテ單ニ書面又ハ電信カ先方ニ達シタルモノニテハ意思表示完成ニ恰モ變ニ爾シテ談話ヲ爲スト一般カリト言ヘ即チ此見解ニ於テ了知主義ナルモノヲ生ス即チ了知主義ノ說ニ據レバ受信者ニ於テ其書面又ハ電信ヲ讀ミタルコトヲ必要トセリ予ヲシテ言ハシメタル單ニ之ヲ讀ミタルモノニテハ不可ナリ進テ之ヲ了解シタルコトヲ必要トスト曰ハサル所得タル如ク現ニ富井君ノ如キハ理論トシテハ此說ヲ取レルニ似タリト雖モ是ハ實際上殆ト採用スルコトヲ得サル不運ノ論ナリ何トカレハ相手方ニ之ヲ了知シタルモノ否キハ全ク心理上ノ作用ニ屬シ外部ヨリ之ヲ窺フコトヲ得ズ隨テ實際上其證據ヲ舉タルコトヲ得サルヲ以テ苟モ其書信ヲ受取タル以上ハ之ヲ了知タルモノト看做ササルヘカラス是ニ於テハ受信主義ナルモノヲ生ス故ニ受信主義ハ畢竟了知主義ノ變體ナリ而シテ富井君ノ如キモ學理上了知主義ノ最モ正確ナル

コトヲ信スルモ實際上ニ於テハ受信主義可ナリ軍官ハ然ルヲ知リテ以テ之ヲ見レハ丁知主義若クハ受信主義ノ如ク相手方ノ知リタル若クハ知ルベカラシメテ以テ意思表示成立スルモ他ノ人ノ行為ヲ以テ表意者ノ行為中ニ包含セシメントスルモ之ヲ頗ル無理ニ反セテ加之隔通者間於テハ本人自ラ其意思表示ヲ相手方ニ到達セシムルコト能ハサルヲ以テ其意思發表ノ書面ヲ相手方ニ對シテ發送シタル以上ハ理論上意思表示成立ナリ然レモ其對テノ外ナク相手方方之ヲ受取り又之ヲ讀ム所如キハ前報モ言ヘ所如キ意思表示アリテ後ニ生スル事實ニ過キス又實際上ニ於ケル利害如何ヲ考フルニ少クトモ契約ノ成立ニ關シテハ受信主義ヲ採用スルヲ以テ最も實際ニ適セリト信スモ是レ實ニ予一家ノ見ニ非ス法典調査會ニ於テ特ニ實業家ノ意見ヲ徵セシム其大多數ハ受信主義ノ可ナル旨ヲ回答セタリ而シテ其理由由テハ所モ大抵予ヲ特論ト符合セリ蓋シ人事ノ複雜ニ趁テハ隨處益取引ノ迅速ヲ必要トシ殊ニ商業上ニ於テハハ割千金ノ謬ヲ漏ラシテ割大差ニ同リ全然商機ヲ逸スル所ニアルヲ以テ一層取引ノ迅速ヲ貴ハサルガラス然ルニ受信主義若クハ丁知主義

戰ヲ探用スルモノニ何時契約成立ヲ見テハ其カ殆捷之ヲ知ラザルヲ得約  
 トナレハ電信ハ距離多ク場合ニ於テ即時ハ到達スルモノナラバ航中我邦ノ電  
 報ハ屢々非常延宕著ク爲シ甚難キニ至リ得テハ全ク到達セザルモノアリ外國ニ於  
 テモ亦時々取テ此ノ如キモノナリトモ殊ニ郵便ノ如キハ最も到達ノ時刻不  
 明ニ爲ラタリ因リテ甚シキ遲延アルモノ使テ其紛失ヲ見ルモノ殊ニ多ク況  
 ナル便者以テ其結果ハ先方ニ到着スルモノ否キモ頗ル不確定ナルヲ感ハ中途  
 シテ病ニ罹リ數日ヲ空過スルモノアルモノ或ハ中途ニ於テ死亡シ先方ニ到着  
 セザルモノトアルモノ亦皆時郵便電信ノ未タ行ハレザリシ頃爲ルモノハ此ノ如キ  
 事例ハ敢テ稀ナリト述テラレタリ唯今日ニ於テ郵便電信等ノ便アルヲ以  
 テ極ク近地ニ非タル限りハ使者ヲ發スルカ如キト始テアルモノカモ然ルヲ  
 以テ感ハ杞憂無過キアルモノ知所ハ力盡スト雖モ何レノ方法ヲ使モ其電信  
 カ先方ニ到達スル時日ヲ豫知スルモノヲ得テアルヲ以テ承諾ヲ通知ヲ盡セタル  
 者ハ自己ノ意思表示力相相手方ニ到達シタルモノヲ確信スル能ハサルハ契約  
 ノ履行ニ著手スル所ナラズ得タルモノニ因テ其準備ニ著手スル所ナラズ得シ何

一一旦契約爲スル決心ヲ爲す而モ之ヲ發表せずハス拘ハラヌ後ニ至リ其意  
 思變更シ其ハ爲ス其斷カレ意思ニ依テ之ヲ前ノ意思表示ヲ取消シ以テ自己利益  
 益圖制スルハ至ル是ハ善意者ニ取リ制ス成ム便特由ル出シト雖モ相手方ニ取  
 リテハ頗ル迷惑ナリ前ハ善意者ニ取リテ是ヲ以テ我民法ハ理論上ト可容カ始  
 ヲ推テ實際上契約ノ成立ハ承諾ノ通知ヲ發シタル時ニ完了スルモノトスルヲ  
 可トシ違フ發信主義ヲ採用シ然リ唯テ不追償ナル所ハ民法力契約ニ關シ發  
 信主義ヲ採用セラル拘ハラヌ他ノ法律行為ニ付テハ受信主義ヲ採用ス設ク是  
 何何ナレバ此點問題無キ契約ノ承諾ノ開始ヲ生シタル問題ニシテ外國ハ  
 於テハ契約ニ付テ發信主義又ハ受信主義ヲ採ルトキハ其結果トシテ他ノ法律  
 行為ニ付テモ同一ノ主義ヲ採ルヲ例トセリ然ルニ我民法ハ議論ノ焦點タル契  
 約ノ成立ニ付テ發信主義ヲ採レルニ拘ハラヌ他ノ法律行為ニ付テハ反對ノ主義  
 ヲ採リ此點問題無キ契約ノ承諾ヲ得タルモノト謂フヘキ點ナリ而シテ是レ畢竟  
 法典調査會ニ於テ總則ノ條國際條約ニ受信主義ヲ論者多數ヲ占メ契約ヲ議ス  
 ハ際ニハ發信主義多數ヲ占メタル結果ニシタルニ依リテ之ヲ敢テ不可ナキカ如



トテ得ストセハ到底必要ナク時期點總會ヲ開タコトヲ得ス現ニ季刊佛國面ノ  
或學會ノ會員ニシテ展ニ總會招集ノ通知ヲ受テ然モ其通知ノ到著スル時ハ既に  
總會ヲ終ハリタル後一ヶ月前後ヲ經過セリト常トス故ニ外國ニ於テハ此ノ如  
キ場合ニ付テハ必ズ發信主義ヲ採リ得方知リ然レバ我國ニ於テハ總會招集  
集ニ付キ別段ノ規定ナキヲ以テ等シク受信主義ヲ採リ得方知リ然レバ我國ニ於テハ總會招集  
ヲ理論上ヨリスレハ外國ニ在ル社員ニ對シテモ招集ノ通知ヲ到達シタル後其  
非ナレハ總會ヲ開タコトヲ得スト云ハテ然モ是ハ實ニ不都合ヲ極メシ  
タ今日ニ至ルマテ幸ニシテ爭ヲ生セザルモ若シ爭ヲ生ズルモ其ハ頗ル困難ナ  
ル結果ヲ見ルヘシト信ス尤モ人ニ依リテハ總會ノ招集ハ意思表示ニ非ズトモ  
民法ニ總會ノ招集ニ付テハ發シタル文書ヲ加テテ之ヲ要當テスル所類  
シト雖モ是レ全ク惡見ニシテ總會ノ招集ハ例ハ其理事會ノ決議ニ依リテ  
決議シ得ヘキ事項ヲ決議セシメシト欲シ法律ハ規定ニ依リテ之ヲ招集スル所  
ノナリ隨テ法律上ノ效力ヲ生セシムル爲メ其理事會自己ノ意思ヲ通知スルモ  
ノナリ即チ總會ノ決議ハ法律上ノ效力ヲ有スル故ニ理事會其效力ヲ生セシ

ムル爲メニ其意思ヲ表示スルモノナリ隨テ其法律行為ナルモノト認テ釋ス現  
ニ商法ニ於テハ之ヲ法律行為ト認メタル結果已ニ得テ總會ノ招集ニ付テハ  
悉ク發ノ字ヲ加ヘタリ幸ニシテ其適用最モ多ク廣シ契約ニ付テハ發信主義ヲ採  
リシカ故ニ多クノ場合ニ於テハ例外毎テ原則タルノ結果ト爲ルヘシ即チ第五  
百二十六條第一項ニ曰ク「日本商會法ニ依リテ」云々然レトモ是レ唯本則タルニ止マ  
ル規定ニ依リテ「承諾ノ通知ヲ發シタル時ニ成立ス」云々然レトモ是レ唯本則タルニ止マ  
ル時トシテハ承諾ノ通知ヲ發スルモノト要セタル場合アリ而シテ實際ニ於テ  
ハ此ノ如キ場合意外ニ頻繁ナルモノナリ例ヘハ申込者ヨリ貴殿所有ノ米百石  
ヲ一石十圓ノ割合ヲ以テ買受度承諾ノ上ハ直チニ送付ヲ望ムト云フ如キ申  
込ヲ爲ストキハ相手方ハ特ニ承諾ノ通知ヲ發スルコトヲ要セス米ヲ發送スレ  
ハ其發送ハ承諾ノ通知ノ代用ヲ爲スモノナリ尙ホ予ニ調査シタル所ニ據レバ  
商業上ノ慣習ニ因リ或營業ニ在リテハ特ニ承諾ノ通知ヲ爲スコトナク何等ノ  
通知ナキトキハ承諾シタルモノト看做シ直チニ契約ハ履行ニ著手シ若シハ契



約ノ履行ニ必要ナル準備ヲ爲スヲ例示スルコトアリ而シテ是ハ當ニ我邦ニ於  
クノミ然ルニ非ス外國ニ於テモ其例ニ悉シカラサル所ナラモ唯我邦ニ於テハ調  
査ノ結果此ノ如キ場合意外ニ多キコトヲ發見セタリ是ヲ以テ第五百二十六條  
第二項ニハ此ノ如キ場合ニ付其規定ヲ同定スルモノトシテ之ヲ第五項ニ於テハ  
申込者ノ意思又ハ取引上ノ慣習ニ依リ承諾ノ通知ヲ必要トセザル場合ニ於  
テハ契約ハ承諾ノ意思表示ト雖モハキ事實アリタル時ニ成立スルモノトス  
以上述ヘタル發信主義受信主義ノ論爭ハ單ニ理論上ノ問題ナラモ其事實之  
ニ因リテ實際上種種ナル結果ヲ生ス而シテ其細末ノ點ニ至ルモノハ列舉セ  
ンコトハ其繁ニ堪ヘスト應モ要スルニ之ニ因リテ契約成立ノ時期ヲ異ニシ隨  
テ契約ノ效力ヲ異ニスルコトアリ例ヘハ今日承諾ノ通知ヲ發スルモ明日先方  
ニ到達スルトキハ既ニ一日ノ差アリ況ヤ遠隔ノ地ニ在リテハ往往數十日ヲ要  
スルコトアリ之ヲ爲メニ契約ノ效力ヲ種種之ヲ變化シ生ス今其主義ナルモノ  
ヲ舉クレバ契約成立ノ日ヨリ利息ヲ生スル場合ニ於テハ契約成立ノ時期如  
何ニ因リ大ニ當事者ノ利害ニ影響スルヘシ又他定物ニ關スル契約等ニ在リテハ

其特定物ヨリ生ズル事實ハ契約成立ノ日ヨリ讓受人ニ於テ取得ノ利益ヲ得  
ル場合アリ殊ニ特定物ノ上ニ物權ヲ移轉シ目的トスル場合ニ於テハ通常契約  
成立ノ時ヨリ其權利移轉シ又物ニ關スル危險ハ此時ヨリ債權者ノ負擔ニ歸ス  
ルヲ常トス此ノ如キ場合ニ於テモ契約成立ノ時期ハ極大ニ重要ナル問題ニ屬  
ス又一ハ大ニ其效力ニ相違ヲ生スルハ國際私法ノ問題ニシテ時トシテハ契約  
ニ適用スルべき法律ヲ異ニスルコトアリ即チ契約ノ效力ニ付テハ契約成立地ノ  
法律ヲ適用ストノ原則アリ之ヲ名ケテ行爲地法ト云フ而シテ契約ガ何時成立  
スルガハ問題ハ畢竟契約ガ何レノ地ニ於テ成立スルモノハ問題ナルカ故ニ發信  
主義ヲ採ルトキハ承諾者所在地ハ即チ行爲地ニシテ受信主義ヲ採ルモノハ  
其相手方ノ所在地即チ行爲地ナリ隨テ行爲地ヲ異ニスル結果國ヲ異ニスルコト  
キハ適用スルべき法律ヲ異ニスルニ至ル尤モ我國例ハ此點ニ付テハ特ニ規定ヲ置  
カズ故ニ疑義生ズル事雖モ多クハ此ノ如キ細末ノ點ニ付テハ規定ヲ置カズル  
故ニ契約ニ關スル一般ノ原則ニ據リテ之ヲ決セサルヘカ事ナルヲ常トス我  
國例此點ニ於テハ法律ヲ異ニスル地ニ在ル者ニ對シテ爲シテ其意思表示ニ付テ

ル後之ヲ欺瞞スルトナリ得ル等否ハノ問題ニ如キモ憲法主義ヲ採ルモノ受指主義  
ヲ採ルモノニ對シテ其決定ヲ其主權ニ此點ニ待ツ自慢ヲ承諾ヲ論サルモノ至リ靜觀  
ムヘシ國々ハハハ憲法七條ノ公認ニ關聯シテ盟約ハ強迫ニ關連セズ故ニ  
之ヲ要スルニ契約ノ申込ニ對シテ承諾ニ因リテ成立セザルハ各名師紳耆の間ニ  
ニ於テ其合承諾ヲ通知ヲ聲シタリ時盟約ノ成立否以下申込ト承諾トヲ各別ニ説  
明セ東洋ニ受諾ノイハレ意思ニ非ラ又ハ諸君必聖土ニ東洋ハ盟約ニ對  
「申込」ノ前ニ通ヘル如ク契約締結ヲ提議シタル之ノ意思ヲ明白ナ未ダ法律作  
爲成立セズ然ルモ獨逸民法ノ如クハ申込應以テ法律行為トシタルカ如ク之ヲ獨  
東方ニ附キテ然レトモ我民法ニ此主義ヲ採ラス是則理論上又實際上頗ル躊躇  
ナル所ナリ然レ申込ニ效力ヲ附レ之ヲ一種ノ法律行為ト看做せ說ノ論據ト爲サ  
斯レ世ノ開明ニ漸チテ隨ヒテ法律カ力ニ依歸事者ノ意思ニ效力ヲ有テ預メ作  
何向テ生テ爾ハ才申込ハ固ヨリ獨立イ行為ニ非ズ承諾ニ違ハズ始メテ十分義  
教ヲ海洋子全權力ナリ然レトモ既思慮事者ニ方寸ナ分ノ決意ヲ爲ル其決  
意ヲ表示シタルモノナリ故ニ彼禮威儀ナリ之價致肉ヲ有キレ無價可レ能ハト云



ラニ在ラ然レトモ予ハ此説ニ服スルコトヲ得候トシレモ當事者ノ意思ニ効  
力ヲ有セシムルニ可ナリト雖モ其意思以外ニ効力ヲ有セシムルコトヲ得其申  
込ノ意思表示ナル由ニ立テテ其意思ヲ發表シタル時ニ非ス  
テ是ノミヨリテ何等ノ效力ヲ生セズ唯相手方カ承諾ヲ爲ストキハ此ニ始メ  
テニ法律行爲成立スルコトヲ豫期セテ意思表示ヲ即チ初メテ立ノ效力  
ナルモノトシテ爲シタル意思表示ニ非ス然ルニ法律ニ於テ之ニ強制力ヲ有セ  
シテ以テ申込者ヲ束縛スルニ當事者ノ意思以外ニ効力ヲ有セシムルニ要ルベ  
シモノ信スル所ニ據レバ文明國ニ於テハ原則トシテ意思ノ自由ヲ認メ唯當事  
者カ束縛ヲ受ケントスル意思ヲ有シ又ハ法律カ必要上之ヲ束縛スル場合ニ始  
メテ其自由制限セラルモノトス故ニ總て當事者ノ一方カ或意思ヲ有シ之ヲ  
束縛スルモノ之ニ因リテ直ニ自ラ束縛セラルル意思ナキ限ニ法律ヲ以テ之  
ヲ束縛スルハ適當ナラスト信ス但公益ニ關係アル場合ハ此限リニ在ラス故ニ  
申込モ亦場合ニ因リ公益上法律カ之ニ効力ヲ附セラルルカヲアルコトアリ然  
レトモ原則トシテ申込カ束縛力ヲ有スト云フハ當事者ノ意思ヲ重ンヌルニ似

ク却テ之ヲ重ンヌルモノナリ故ニ予ハ申込ニ關シテ束縛力ヲ有セザルモノト  
雖モ探ラヌ況ヤ實際ニ於テモ唯申込ノ因リテ相手方カ損害ヲ受ケ給付ヲ受  
ケト稱ナリ若シ違証ヲ爲ストキハ則チ不法行爲ノ制裁トシテ損害賠償ノ責任  
アルト同シテ申込者ニ責任ヲ負ハシムルハ可ナリト信ス然レバ則チ故ニ  
ハ當事者ノ申込ニ強ヒテ束縛力ヲ附スルノ必要ナキ故ニ我民法ハ原則トシテ  
此ノ如キ主として探ララルモノナリ  
申込ノ效力ハ承諾期間ノ定アルト否トニ因リテ異ナリ承諾期間ノ定アル場合  
ニ於テハ相手方ハ必ズ其期間内ニ承諾ヲ爲ササルハカラス若シ其期間内ニ承  
諾ヲ爲ササルトキハ申込ハ其效力ヲ失ヒ終合期間後ニ至リ承諾ヲ爲スル無効  
成立スルコトナリ例ヘバ申込者カ五日内ニ承諾ヲ答フヘキ旨ヲ附言シテ申込  
ヲ爲シタル場合ニ於テ相手方カ五日内ニ承諾ヲ爲ササルトキハ其申込ハ效力  
ヲ失フノ類是ナリ而シテ此場合ニ於ケル承諾ノ意思表示ハ意思表示ノ通則ニ  
從ヒ隔地者間ニ在ラナリ其通知カ期間内ニ申込者ニ到達スルコトヲ要ス第百  
百二十一條第二項ニ曰ク

日申込者カ前項ノ期間内ニ承諾ノ通知ヲ受ケタルハ申込ハ其效力ヲ失フ  
是レ承諾有意思表示ニ付キ承諾ト既而債信主義取ルモノ一見矛盾然レ如  
シト雖モ然レ然レ然レ法律ニ申込者ノ意思ヲ推測シタ此ノ如ク規定シタルモ  
ノナリ蓋シ承諾期間ヲ定ムルト否トハ全ク申込者ノ意思ニシテ決定スル  
場合ニ於テハ主トシテ自己ノ利益ヲ爲メニ定ムルモノト觀テ州ハ力ヲ出  
テ申込者ノ意ハ其期間内ニ諾否ヲ聽カント欲スルニ在ルハ必ズリ然ルニ  
内ニ承諾ノ通知ヲ申込者ニ到達セサルニ拘バラス相手方カ期間内ニ其通知  
發シタルハ之ニ因リ契約成立スルモノト相申込者カ期間内ニ其通知  
反シテ通知ヲ申込者ハ意外ノ損害ヲ被ムルコトアルヘシ故ニ申込者カ反對ノ意思  
ヲ表示シ例ヘハ前例ニ於テ五日内ニ承諾ノ通知ヲ發シハ其旨ヲ明言シタル場  
合ノ如クハ格別然ラサル場合ニ於テハ常ニ承諾ノ通知カ期間内ニ到達スル  
トヲ要スルモノトシタルナリ然レモ此場合ニ於テ契約カ何時成立スルカ其  
一ノ問題ナリ即チ承諾ノ通知カ期間内ニ到達セサルトハ其契約成立セサル  
勿論ナリト雖モ期間内ニ到達セタルトハ其契約ハ其到達ノ時ニ成立スルカ

將タ其通知ヲ發シタル時ニ成立スルカヲ問題トシ而シテ此問題ニ付テハ第五百  
百二十一條及ヒ第五百二十六條ヲ參照シテ之ヲ攷フルニ其成立ノ時期ハ普通  
ノ場合ト同シタ承諾ノ通知ヲ發シタル時ニ在リト云ハサルニ其旨ヲ明言シタル場  
合ニ於ケル承諾ノ效力ハ宛モ解除條件ニ繫ルカ如キ狀態ニ在ルモノトシテ承  
諾ハ其通知ヲ發スルト同時ニ成立スルモノモ其通知カ期間内ニ到達セタルトキニ  
限リ確定ノ效力ヲ生シ之ニ反シ期間内ニ到達セサルトキハ嘗テ成立セザリシ  
モノト看做サルナリナリトシテ其旨ヲ明言シタル場合ニ於テハ其旨ヲ明言シ  
申込ニ附シタル承諾期間ハ若ニ述ベタル如ク申込者ノ利益ヲ爲ルモノナリト  
雖モ之ト同時ニ亦相手方ノ爲メニ利益ヲ爲ルモノナリ即チ法律ハ承諾期間  
ヲ定メテ申込ヲ爲シタル場合ニ於テハ其期間内ハ申込ヲ取消シタルヲ起言サ  
リト看做シ申込ハ原則トシテ其旨ヲ明言シタル場合ニ於テハ其旨ヲ明言シ  
期間内ハ消極的ノ義務力ヲ有シ之ヲ取消スコトヲ得タルモノトモ是レ能  
至當ノ規定ニシテ例ヘハ申込者カ五日ノ期間ヲ定メテ申込ヲ爲シタルトモシ  
ニ相手方ハ承諾ノ通知カ五日内ニ申込者ニ到達セシレ其旨ヲ明言シタル承諾



其期満内ハ申込テ取消スニ思ハレ得テモ其期満後ニ於テハ必要アリト雖モ承諾期間  
 ノ定キ場合ニ於テ其期満者間ニ契約書付テモ承諾ヲ得スニ相當ナル期間  
 其申込テ取消スニ思ハレ得テモ其期満後ニ於テハ必要アリト雖モ承諾期間

場合に於て、先申込の效力を付し、承諾期間一定不商場合ニ在るは、承諾金ヲ受給スル効力ヲ失フ。承諾期間一定不商場合ニ在り又、其期間を経過シテ、因リ先申込の效力ヲ失フ。又、本名申込者ノ意思表示圖爲サズ之の間有有效ト承諾ヲ爲スコトヲ得。若モ商法ニ於て之を取引ノ數額記載者ノ趣旨ヨリ承諾期間一定不商場合同然レ相手方當時ニ承諾ヲ爲カザルハ、後申込取消ヲ得。主ハ期間を経過シ價金相手方亦承諾ノ通知ヲ發セザルハ、後申込取消ヲ得。然レ當然其效力ヲ失フ。又、此等即前商法第二百六十九條ニ附屬者期間於テ契約ノ申込ノ受ケタル直ニ承諾ヲ爲サズ則チ其效力ヲ失フ。又、同法第二百七十條第一項ニ臨端者間ニ於テ承諾期間ノ定ナクシテ契約ノ申込ノ受ケタル者ハ相當の期間内ニ承諾ヲ通知ス。雖モ未だ承諾申込ニ其效力ヲ失フ。但右第二百六十九條四條對ノ意思表示ヲ容レタル規定ニ非サルヲ以テ對話者間ニ在リテ承諾期間ヲ附シテ契約正當達ヲ爲シタル場合ニ於テ、其期間内申込の效力ヲ失フ。又、日本民法第五百四十條ノ適用ヲ受ケテ法律對話者間ニ契約締結意欲諾期間ヲ附與スル事ハ例

民法債權 契約ノ成立

承諾者ハ前項ハ通知ヲ怠ラサルハハ契約ハ成立セシメハハ旨做ス  
此場合ニ於テハ申込ノ取消ノ通知カ承諾ハ通知ヲ發シタル後ニ到達シタル  
ナリト以テ契約ハ當然成立セリト雖モ承諾者ニ於テ通知ハ日附等ニ據リ申  
込者ハ其取消ノ通知カ承諾ヲ通知ヲ發シタル前ニ到達シタルハト想像スヘ  
キ日ニ發セラルタルコトヲ知得ル場合例ヘハ申込者カ東京ニ住シ承諾者カ  
横浜ニ住スル場合ニ於テ申込ノ取消ノ通知カ十一月十一日ニ郵便ヲ付セラル  
タリトセハ通常遲延ニ其翌日到達スヘキヲ以テ申込者ハ廿二日ハ必ス承諾  
者ニ到達シタルモノト信スルハ當然ナリ然ルニ其通知カ延遲シ九月十三日ニ到  
達シ承諾者ハ同日其到達前既ニ承諾ヲ通知ヲ發シタルトセハ此場合ニ於テ  
モ契約成立スルコト勿論ナリト雖モ申込者ハ取消ノ通知カ承諾ヲ通知  
ヲ發スル前ニ到達セラルニ拘ハラズ相手方カ契約ノ成立ヲ欲スル餘リ承諾ヲ通  
知ヲ發シタルモノナラント想像スルコトカ能ク保セラルヲ以テ承諾者ハ遲滯  
ナク例ヘハ取消ノ通知ノ到達シタル日若シ其翌日ヲ以テ承諾ヲ通知  
サルヘカラス若シ其通知ヲ怠ラトモハ申込ノ取消ハ有效ト看做スル契約成立

セタルコトト爲ルナリ蓋シ此通知ハ承諾者ニ取テハ實ニ一舉手ニ殺延ノ勇  
ニシテ申込者ニ取リテハ極メテ必要カラス以テ法律ハ特ニ右ノ規定ヲ設ケタ  
ルナリ  
終ニ臨ミ申込ニ關シ申込者ノ死亡又ハ能力喪失ノ場合ニ付テハ言セシメ  
諸君カ既ニ總則編ニ於テ研究セラレタルコトヲ信スル如ク第九十七條第二項  
ニ依レハ隔地者ノ意思表示ノ一般ノ規定トシテ表意者カ通知ヲ發シタル後ニ  
死亡シ又ハ能力ヲ失フモ意思表示ハ之カ爲メニ其效力ヲ妨ケタルモノトナシ  
トアリ而シテ承諾ニ付テハ特ニ發信主義ヲ取テ其通知ヲ發スルト同時ニ承諾  
成立スルモノトセラル故ニ其後ニ至リ承諾者カ死亡シ又ハ能力ヲ失フモ決シ  
テ承諾ノ效力ニ影響ヲ及ボサタルコト固ヨリナリ申込ニ付テハ特別ノ規定ヲ  
置カサルモ當然意思表示ノ通則タル右ノ第九十七條第二項ノ適用アリ隨テ申  
込ノ通知カ未タ相手方ニ到達セタルニ先チ申込者カ死亡シ又ハ能力ヲ喪失シ  
タル事實アルモ其申込ノ效力ヲ妨ケタルコトナキハ明カナリト雖モ元來申込ナ  
ルモノハ申込ノミニ因リテ確定リ效力ヲ生スルモノニ非ス承諾ニ達セテ始メ



ヲ完全ノ效力ヲ生ズルモノナリ即チ申込ニモ申退ニモテハ其ノ效力ヲ生ズルコトハ勿論ナルモ未タ權利義務ノ原因ト爲メコト雖ハ不故ニ未タ承諾アラサル以前ニ於テ申込者カ死亡シ又ハ能力ヲ喪失スルトモハ申込者或ハ效力ヲ失フニ非タルカノ疑ヲ生ス我民法ニ於テハ此問題ニ對シ原則トシテハ總則ノ規定ヲ適用シ申込ノ通知カ相手方ニ到達シタル後ナクハ其前ナリトシテ即チ第  
九十七條第二項ニハ廣ク通知ヲ發シタル後ト規定セリ故ニ此原則ノ取テ疑ヲ容レタル所ナリ然レトモ此原則ニ對シ二ノ例外ヲ認メタリ其一ハ申込者カ反對ノ意思ヲ表示シタル場合ニシテ例ヘバ申込者カ病ニ臥シ死ニ瀕セリ若シ存命中承諾ヲ得ハ契約ヲ成立セシムルモ死後ニ於テハ契約ヲ成立セシメタルヘキ旨ヲ申込ニ附言シ若シハ申込者カ屬精神ヲ喪失スルコトヲ認メヨリテ禁治産ノ宣告ヲ請求セルモ未タ其宣告アラサル場合ニ於テ若シ承諾ヲ得タル前其宣告ヲ受クルトモハ契約ヲ成立セシメタル旨ヲ附言シタル場合ニ如シ而シテ後ノ場合ノ如キハ實際ニ於テ極メテ稀ナルヘシ此種ニ契約ノ種類ニ屬

ナリ但シ後見人ヲ以テ應付スルハ此種ニ屬セザル爲メ此ノ如キ意思表示ヲ附スルコトナシトモ應付スル此等ノ場合ニ於テハ承諾ヲ得タル申込者カ死亡シ又ハ能力ヲ喪失スルトモハ申込者其效力ヲ失フナリ他ノ如キハ相手方カ申込者ノ死亡シ又ハ能力ヲ喪失スル事實ヲ知レル場合ニ於テ此例外ヲ認メタル理由ハ元來契約ナルモノハ當事者雙方ノ意思ノ合致ニ附テ成立スルモノナリ即チ申込ニ對スル承諾アラザル始メテ成立スルモノナリ而シテ意思ノ合致ナリトスルハ當事者雙方ノ同時ニ同一ノ意思ヲ有セタルヘキナリ然ルモ其一方カ死亡シ又ハ能力ヲ喪失シタルトモハ其者ハ全ク意思ナク若クハ病ニ臥シ死ニ瀕セリトモ故ニ意思ノ合致アルコトナシ隨テ此場合ニ於テハ申込ハ效力ヲ喪失スルモノナリ然レバ相手方其事實ヲ知タル場合ニ於テハ何故ニ申込ノ效力アルモノトシタルカ是レ畢竟實際ノ便利ヲ圖リタルモノニシテ格ニ第  
九十七條第二項カ受領主義ヲ取レル第一項ノ原則ニ反シ意思表示ヲ先方ニ到達セタル前表意者カ死亡シ又ハ能力ヲ喪失スルモ其效力ヲ妨ゲタルモノトシタルト同一ノ理由ニ由テ即チ契約ニ付テモ相手方其事實ヲ知タル場合ニ

於テノ藉シ之ヲ爲ス。而契約成立ニ付モ、由キ代價ヲ申込メ、取消シ付カザルハタル如ク承諾者其承諾ヲ爲ス無付キ或ハ費用ヲ要ス或ハ時間ヲ費シ或ハ他ノ利益ヲ得申込テ拒絶シ以テ承諾人通知ヲ發シ而シテ未ダ申込有ク死亡シ又ハ能力ヲ喪失シタルロト知ラズ則チ契約ハ完全ニ成立スルモノト信ジ庫チニ履行若クハ其準備ヲ着手スル異常トス然レモ申込者ノ死亡又ハ能力喪失ノ爲メ其契約不成立ニ終リテ承諾者ハ本金シテ損失ヲ被スルハ故ニ此場合ニ於テハ例外トシテ契約成立シタルモノト看做サレリ而シテ法律ヲ相手方力申込者ノ死亡又ハ能力喪失ヲ知ラズ相場合ノ原則トシテ規定セラル故ニ之ヲ知ラズルモノト主張スル者モ畢竟ノ實ニ任ケタルベカラズ但申込者ノ相續人後見人等ニ於テ契約成立立欲セラルトキハ相手方力承諾ヲ爲ス先キ死亡又ハ能力喪失ヲ通知スルモノ可ナリ尙ホ能力喪失力ハ文字ニ多少疑義アリ又學ニシテ名ヲ嚴義ニ解スルトキハ權利能力ノ喪失及ビ行為能力ノ喪失又包含スルニ歸ヒトモ我法典外ニミ民法ニ於テハ斷力ヲハ文字ヲ行爲能力人意義ニ使用セリ故ニ我民法上權利能力ノ喪失ハ所謂能办喪失中ニ包含スルモノ先

臨宣告ノ如キハ權利能力喪失無効不適合ナリ其間ニモトヲ得ルニ由ル如シ其  
 雖モ死亡シタルモノト稱做スル中結果權利能力ヲ喪失而モ絶對ニ喪失ナルハ  
 非ズアルモノナリ故ニ其死亡ニ屬スル能力喪失ニ屬セザレ而シテ行為能力ノ  
 喪失ヲ付テモ法律上特ニ無能力者トシ名ル場合及ヒ事實上ノ無能力期ヲ意思  
 能力ナキ場合ヲ想像スル所カニ在リ所謂意思能力ナキ場合ハ最も蓋シ無効ナ  
 リ學カレハ禁治產ノ宣告ヲ受ケタル瘋癲者ノ如キモノニテ之ヲ理論上ハ適當ニ  
 ハ泥酔者睡眠中ノ者ノ如キモ亦能力喪失者タルカ如シト雖モ能力喪失有テ又  
 字ハ此ノ如キ廣キ意義ヲ有セス隨テ泥酔又ハ睡眠ヲ知見者爲メ其申込無効  
 ト爲リ契約成立スルカノ意味ニ非ズアルコトハ常識ヲ以テスルハ明カナル所ナ  
 リ故ニ能力喪失ノ必要ニ法律上特ニ定メタル能力喪失例ハ禁治產主義  
 治療婚姻等ノ場合及ヒ心神喪失ノ場合ヲ指サスモノニシテ心神喪失ノ場合及ヒ  
 禁治產ノ場合ハ總テノ財産上ノ契約ヲ爲シ得スル面ヲ手續終絶及ヒ婚姻  
 場合ニテ一定ノ契約ニ付キ保佐人又ハ夫ノ同意ヲ要スル場合ニノ此適用  
 スルモノナリ未成年者ハ能力喪失者中ニ包含セザルモノト明注意スルニ宜キ唯心神



喪失ト他ノ場合ト異ナル所以ニ準テ契約全ク成立セシムルニ至ラザ取消スルコトヲ得ルニ止マルト一點ニ在リ終局ノ人又ハ夫ノ同意ヲ得ルニ限リ之ヲ取消スルコト向ホ此ニ一言スルニハ契約ノ付テハ第五百二十道條ニ「反對ノ意思表示ナル文字アルモ總則第九十七條ニ依ル此ノ如キ文字ナキヨリ裏面論法ニ依リ契約以外ノ場合ニ於テハ反對ノ意思表示ヲ容レタルモノナリト解ス」云々云々ト是ナリ即チ契約以外ニ於テモ意思表示ヲ爲スニ當リ其通知カ未ダ先方ニ到達セタルニ先チ表意者ハ死亡シ又ハ能力ヲ喪失スルトキハ其意思表示ヲ無効トスル旨附言スルモ迄防アラサルナリ但實際上ヨリ當ヘハ契約以外ノ法律行爲ニ付キ此ノ如キ意思表示ヲ附スルコト殆ト稀ナリト信ス例ヘハ單獨行爲カナル僅若クハ追認ヲ爲スニ當リ其通知カ先方ニ到達スルニ先チ死亡シ又ハ能力喪失ノ事實アルトキハ之ヲ無効トスベキ旨ヲ附言スルモ殆ト想像ノ及ハサル所ナレハナリ唯契約ニ在リテハ其種類ハ因リ此ノ如キ意思表示ヲ附スルコト絶無ナリトモス例ヘハ病中ニ在リテ自己ノ衣服ヲ遺失スル場合ノ如キヲ萬一死亡シ應到承諾ノ通知前不事ニシテ死亡スルコトナラハ中途ヲ無

效トスル旨附言スルコトナシトモス故ニ契約ニ付テハ特ニ反悔ノ意思表示  
 爲セタル場合ヲ規定シ總則ニ於テハ之ヲ規定シ置カテシテナリ以テ其期間ヲ  
 以上ヲ以テ申込ノ説明ヲ了レリ次ニ承諾ニ付テ説明スルハ必ズ必要ナク  
 我民法カ承諾ニ付キ發信主義ヲ取ルコトハ既ニ説明シタル所ナルヲ以テ再  
 説スルコトヲ須ヒス唯此ニ説達スルヘキハ承諾期間ヲ附シテ申込ダケ爲セタル場  
 合ニ付キ法律ハ申込ノ取消ノ延着ニ付キ第五百二十七條ノ規定ト同一ノ精神  
 ニ基キタル規定ヲ設ケタルコト是ナリ第五百二十二條曰ク期限経過後ノ  
 承諾ヲ通知カ前條ノ期間後ニ到達シタルモ通常ノ場合ニ於テハ其期間内ニ  
 到達スルモノハ即時ニ發達シタルモノナルコトヲ知り得ルモノトシ申込者ハ  
 遲滞ナク相手方ニ對シテ其延着ヲ通知スルモノトシ要ス但其到達前ニ總  
 延着ヲ通知スルモノトキハ此限ニ在リ不罰蓋シ延着ノ實際ニ於テ承諾  
 申込者カ前項ノ通知ノ怠ラタルトキハ承諾ノ通知ノ延着ヲ爲メタルモノ  
 爲メ前項ノ規定ヲ適用スルモノトシ前條期間内ニ延着ノ通知ヲ爲メタルモノ  
 是レ第五百二十七條ノ裏面ニシテ申込テ承諾期間ノ定ラズ其期間内ニ承諾ス

ルモ其通知の期間内ニ到達セサルハ契約成立セズト雖モ其通知の應着ノ爲メ期間内ニ到達セザリシモノニシテ通常期間内ニ到達スヘキ日時ニ於テ發シタルルモノナルトキハ承諾者ハ契約成立セリト信スルハ當然ナル故ニ其應着ヲ承諾者ニ知ラシムルハ承諾者ハ或ハ契約ノ履行ニ着手スルヤモ知ルヘカラズ而シテ之ヲ通知スルハ承諾者ニ取リテ實益尠ク手續ニシテ而モ承諾者ニ取リテ頗ル有益ナルヘキヲ以テ法律ハ其通知ヲ爲メヘキコトヲ申込者ニ命ジタリ而シテ若シ其通知ヲ怠ルトキハ之ヲ制裁シテ之ヲ申込者ヲ露東シ承諾の期間内ニ到達セザルモノト看做シ其承諾ヲ有效トスルナリ唯此場合ハ第五百二十二條ト異ナル所ハ其第十項ハ但書ニ關テ第百二十七條ノ場合ニ於テハ承諾者ハ承諾ノ通知ヲ發シテ後申込取消ノ通知ヲ到達セザル旨トヲ通知スルハ非ナレハ申込ノ取消ヲ延滞シタルモノト看做シ承諾者ハ其通知ヲ知ラシムルハ非由ナキ故ニ承諾者ハ其通知ヲ爲メナレハカラスト雖モ第五百二十二條ノ場合ニ於テハ承諾期間ヲ定メテ以テ其期間ヲ經過シ尙ホ承諾ノ通知ヲ接セザルト意ハ申込者ハ其承諾ノ通知ヲ爲メ申

込達ニ無効ニ歸シタル旨ヲ相手方ニ通知スルコトナルハ此場合ニ於テ承諾合承諾ノ通知カ其書面ヲ發シタル後ニ到達スルモ更ニ通知ヲ爲メトテ要セタルナリ例ヘハ横濱ヲ甲ヨリ東京ヲ乙ニ對シ五日間ニ承諾ヲ爲メハ其旨ヲ附言シテ申込ヲ爲シ乙ハ三日ヲ經タル後承諾ノ通知ヲ發シタルハ然ルニ通常通知モ其翌日ニ到達スヘキ豫定ナルニ拘ハラズ故ニ爲メ通知ノ期ヲ翌日ニ至リテ漸ク到達シ其到達前既ニ甲ヨリ承諾ノ通知ヲ爲メ申込無効ニ歸スル旨ヲ通知ヲ發シタルトセンニ此場合ニ於テハ再ヒ延滞ノ通知ヲ爲メ要セタルナリ右ハ承諾ニ關スル一般ノ事項ニシテ尙ホ遲延シタル承諾ニ付テハ言ハレバ其ノ前通ノ如ク承諾期間ヲ定メテ申込ヲ爲メ承諾ノ通知カ期間内ニ到達セザルトキハ其通知ハ原則トシテ何等ノ效力ヲ生セスト雖モ申込者ハ期間經過後尙ホ其意思ヲ繼續スルコトアリ此場合ニ於テ假令何等ノ規定ナシトモ申込者ヨリ更ニ新ナル申込ヲ爲メ之ニ對シテ相手方ヨリ更ニ承諾ノ通知ヲ爲スニ非ナレハ契約成立スルコトナシ然レトモ是レ無益ナル手數ニシテ承諾者ハ

於テモ既に承諾ノ通知ヲ爲シタル以上ハ契約ヲ締結スル意思アルコト明カナルヲ以テ事ヲ申込者ニ於テ之ヲ新ナル申込ト看做シ之ニ對シテ承諾ノ與ハ無ク契約ヲ成立セシムルコトヲ得ルモノトモハ却テ雙方ノ利益ニ害ヲ及ボス當事者ノ意思ニ適スルハ是ヲ以テ第五百二十三條ハ其ノ趣旨ニ照シテ解釋スル可キ也  
通説ハタル承諾ハ申込者ニ於テ之ヲ新ナル申込ト看做スルコトヲ得ルハ規定ヲ適用スト云フニ非ス唯申込者ニ於テ之ヲ新ナル申込ト看做スコトヲ得ルモノトシタルナリ  
終ニ隨ニ申込ト異ナルタル承諾ヲ爲シタル場合ニ付而テ一言言ハシ實際ニ於テハ申込ヲ其儘承諾スルカ如キハ事ノ例外ニシテ多ク之ニ應答スル必要アリ  
以テ承諾ヲ爲スル當トス例ヘバ賣買ニ付テ見取金或物又代價千圓ニ賣買ラントノ申込ニ對シ九百圓ニ減スル買入ヘキ旨ヲ答アルカ如キハ事ノ取引ノ常態ニシテ又時トシタル或條件ヲ附シテ承諾ヲ爲ス可トモ不例ハ他ヨリ同一ノ申込ヲ受ケ條件ヲ附シテ承諾ヲ爲セル故先方ニ於テ其條件ニ承諾セバ貴購

ハ申込者拒絶スルハ其後先方ニ於テ之ヲ承諾セバ契約被破棄爲兩清ナル故販  
ハ申込者承諾スルハ其後先方ニ於テ之ヲ承諾セバ契約被破棄爲兩清ナル故販  
ヲ附シテ承諾ヲ爲シタル場合ニ於テハ雙方ノ意思合致セタルカ故に新ニ承諾  
成立セザルヲ望ムルカ如ク少シク雖モ是レ亦實際無益ノ手數ニシテ申込者承諾  
者ノ希望スル代價ヲ以テ之ヲ賣却シ若クハ其條件ヲ附シテ賣買ヲ爲サザル  
ヲ欲セバ直チに契約ヲ成立セシムルコトヲ得ルヲ便宜ス故ニ第五百二十八條  
ニ於テモ既に承諾ノ通知ヲ爲シタル以上ハ契約ヲ締結スル意思アルコト明カナルヲ以テ事ヲ申込者ニ於テ之ヲ新ナル申込ト看做シ之ニ對シテ承諾ノ與ハ無ク契約ヲ成立セシムルコトヲ得ルモノトモハ却テ雙方ノ利益ニ害ヲ及ボス當事者ノ意思ニ適スルハ是ヲ以テ第五百二十三條ハ其ノ趣旨ニ照シテ解釋スル可キ也  
通説ハタル承諾ハ申込者ニ於テ之ヲ新ナル申込ト看做スルコトヲ得ルハ規定ヲ適用スト云フニ非ス唯申込者ニ於テ之ヲ新ナル申込ト看做スコトヲ得ルモノトシタルナリ  
終ニ隨ニ申込ト異ナルタル承諾ヲ爲シタル場合ニ付而テ一言言ハシ實際ニ於テハ申込ヲ其儘承諾スルカ如キハ事ノ例外ニシテ多ク之ニ應答スル必要アリ  
以テ承諾ヲ爲スル當トス例ヘバ賣買ニ付テ見取金或物又代價千圓ニ賣買ラントノ申込ニ對シ九百圓ニ減スル買入ヘキ旨ヲ答アルカ如キハ事ノ取引ノ常態ニシテ又時トシタル或條件ヲ附シテ承諾ヲ爲ス可トモ不例ハ他ヨリ同一ノ申込ヲ受ケ條件ヲ附シテ承諾ヲ爲セル故先方ニ於テ其條件ニ承諾セバ貴購

ト看做スナリ最モ法律上當事者ノ意思ヲ解釋スル此ノ如キ區別ヲ設ケルハ  
ニシテ遲延シタル承諾の場合ニ於テハ承諾者ヤ承諾ヲ爲メノ意思ニシテ申込  
ヲ爲メノ意思ニ非ヌ又申込者於テ其期限ヲ經過シタル承諾ヲ放棄シタル  
ニテ承諾ヲ以テ申込ヲ爲メタル所ナリ隨テ遲延シタル承諾ヲ放棄シタル  
申込ト看做スルト無キ却テ當事者ノ意思ニ反スル所故ニ唯便宜法トシテ申込者  
ニ之ヲ斷テテ申込ト看做スルト得セシタルニモ餘ルニ申込ト變更ヲ加  
テ承諾ヲ爲シタル場合ハ之ヲ新ナル申込ト看做スコト却テ當事者ノ意思ニ適  
スル所即チ千萬圓買取ル云々ニ對シ九百圓ノ買取ル所ト云々ハ千萬圓ノ申  
込ヲ拒絕シ九百圓ノ申込ヲ爲メタルヲ以テ法律上當事者ノ意思ニ其儘效  
力ヲ附シ之ヲ斷テテ申込ト看做スルハ大別シテ三主義焉爲メコト  
以上ヲ以テ申込者承諾ニ關スル說明ヲ行フナリ次ニ廣告ニ付テ說明セシ  
廣告ノ性質ニ付テハ種種ノ學說アリト雖モ之ヲ大別シテ三主義焉爲メコト  
得ナリ即チ第一ノ主義ハ單獨行為主義ト稱スルモハシテ廣告以テ一箇ノ單獨  
行為ニ屬シ獨立シテ效力發生スルモノナリ即チ契約ニ關シ何等ノ關係ナキ行爲

ナリト主張スルモノ是ヲ契約ノ廣告者ノ所有ニ解スルハ決テ遲延ノ承諾ニハ金  
銀許リ與フナリ特チ廣告ニ於テ單獨行為主義ハ雖モハシテ一種ノ單獨行  
爲ニシテ契約ニハ何種ノ關係ヲ有セズト雖モ獨逸民法ノ如キハ懸賞廣告ニ付  
テ此說ヲ採レテ第二ニ申込主義ニ對シ廣告者以テ其種類ヲ申込ト看做スル例  
如ク契約ノ内容ヲ定メテ廣告ヲ爲メタルニ付ハ之ヲ申込ト看做スル之ニ對シテ  
承諾ヲ爲メタルト直チニ契約ノ成立ヲ認メテ之ヲ即チ前例ニ付テ言フハ何カ  
カ其大ヲ發見シタル之ヲ廣告者ノ許ニ送リテ承諾ト爲メタル之ニ因リテ契約ノ成立  
ニ付テハ是ハ我民法ノ採リテ主義ナリ我民法ニ於テハ廣告者無關スルニ  
般ノ規定ヲ設ケテト雖モ懸賞廣告ニ付テ規定同爲ニ付テ法文上何種ノ主  
義ニ據ルカハ明チモ之ハ所ナリ且雖モ契約ノ成立ノ趣下ニ之ヲ規定セル  
由リテ觀シハ其後ハ懸賞廣告ニ付テ申込主義ヲ採ルカハ明チモ之ハ契約ノ成立  
ノ趣下ニ對シテ何種ノ關係有ラズト雖モ法律家力ヲ盡シテ之ヲ契約ノ成立  
ノ規定ニ付テ規定スルニ關シテ一種ノ法律行為トシテ別ニ規定ヲ設ケテ  
之ヲ力ヲ生現ニ圖法ニ加ヘテ契約ノ關係ニ屬スル範圍以外懸賞廣告ノ趣下ニ我

民法カ申込主機ヲ據ルルコトヲ借主ニ歸スル第三以主機申込前起主機ニシ  
テ或ハ單獨行爲主機ニ近似セシメ所ナキ非其間ハ廣告ナルモノ未ダ申込ナ  
ラス申込ヲ請フ方法ニシテ例ニ其ノ賣物ノ廣告ナルモノ之ヲ一覽シ  
タル上契約ノ申込ヲ爲スモ該廣告ハ申込ニ非ストモ而シテ此主機ハ  
廣告ノ種類ニ因リテ如キ之ヲ取捨者ニシテ例ニ貸家ノ廣告ハ如キハ經  
合間數ヲ記載シ家賃ヲ記載スル未ダ契約ノ内容全部ヲ示セズト謂フコ  
トヲ得ス土地若クハ家屋ヲ賣買ニ在リテハ買主ノ方ニ於テモ市場所一定レ  
坪數確定セルトキハ之ヲ實見セシテ買受タル意思ヲ決スルコトアルベク賣  
主ノ方ニ於テモ自己ノ定タル代價ヲ拂フ者アルトキハ何人タルヲ問ハズ之  
ヲ買却スルヲ普通ニ是レ賣買ニ於テハ通常人進ヲ理由トシテ契約ノ效力ヲ  
左右スルコトヲ許ササル所以ナリ然ルニ家屋ヲ賃貸借ノ如キハ之ヲ異ナシ借  
主ニ於テハ稀ニハ實際其家屋ヲ覽シテ而數及ヒ家賃ノ廣告ノ後ニ依リテ之  
ヲ買受タルコトナキニ非ズト雖モ貸主ニ於テハ右ノ外或ハ家賃ヲ支拂時期ヲ定  
ム或ハ保證人ヲ數シ或ハ修繕ノ一部ヲ借主ノ負擔トスル等種種ハ該款ヲ以テ

スルニ非ナレハ之ヲ賃貸スルコトヲ欲セサル爲メ當トス加之一定ノ期間若クハ  
不定ノ期間繼續スルニ契約ナルカ故ニ借主ハ月又ハ年毎相違ナク借賃ヲ支  
拂フ人ナルヲ否キ又之ニ住スル者カ家屋ヲ損傷セサルヲ使用スルヲ否キ或  
ハ借主ニ於テ修繕ヲ負擔スル場合ニ於テハ修繕ヲ怠ラサル人ナルヲ否キ其  
種種ナル事情ヲ調査シタル上ニ非ナレハ之ヲ賃貸セサルヲ普通トス故ニ間數  
借賃等ヲ記シテ新聞紙ニ貸家ノ廣告ヲ爲スモ未タ以テ契約ノ申込ヲ爲サレ  
モノト視ルコトヲ得ス要スルニ廣告ノ實質如何ニ因リ一概ニ何レノ主機ヲ可  
トスルカラ斷言スルコトヲ得スト雖モ右ノ如ク未ダ契約ノ内容確定セザル場  
合ハ寧ロ申込ノ請起ニ過キストスルヲ穩當トシ之ニ反シ既ニ其内容悉ク確定  
セル場合ハ契約ノ申込ナリトスルヲ穩當トス當非君ノ如キハ予ト其説ヲ同シ  
ウセサル所アルニ似タリ然レモ該廣告ハ因ニ申込ノ人トハ又同ハズ此  
此ニ廣告ニ類スルモノニ付キ併セテ說明スル所アラン而シテ此點ヲ付テ學  
說區區ニ鼓レ現ニ當非君ノ如キモ予ト其説ヲ同シウセサル所アリ先ツ廣告類  
似ノモノノ一ハ正札附ノ商品ニシテ是レ亦契約ノ申込ト觀スルベカラズ而正

札ヲ附シタル商品中ニモ店頭ニ陳列セザルモノハ應代價ヲ配當スルニ非ズ  
爲メ或ハ顧客ヲシテ一見其代價ヲ知ル爲メ得モシタル爲メ或ハ應直分  
トヲ表示スル爲メ正札ヲ附スルモノナリ此等ハ何レモ申込ニ非ズ然レトモ  
物ヲ二山一錢トシテ積ミ置クカ如キハ明カニ申込ニシテ何人タルヲ問ハス其  
價ヲ拂フ者ニ對シ之ヲ賣ル意思ヲ表示セルモノナルカ故ニ例エハ應代價ヲ配  
買ハントスルニ當リ貴殿ニハ賣ルノ意思ヲ示シテ云ヒテ之ヲ拒絶セシメ得  
ニ反シテ貸家札賣家札ノ如キモ正札類似ノモノニシテ賣家札ニ應代價ヲ配  
如キハ殆ト見サル所ナリト雖モ賣家札ニハ應代價及ヒ敷金ヲ配シ中ニハ圖  
附セルモノアリ故ニ其家屋ノ内容ハ略々之ヲ知ルコト得ルハ以テ以テ此  
キ場合ニ於テハ前ニ示セル正札附ノ商品ニ殆ト擇リ所ナク應代價及ヒ敷金  
非サルカメ疑ヲ生スルモ廣告付テ述入タル事同ノ理由ニ因リ契約ヲ申込  
ト爲ラスシテ申込ノ請起シ過キニ何ヲ沙レハ應令其廣告ニ借賃敷金等ヲ明記  
スルモ貸主ノ意ハ之ヲ借賃付テトスル者ニ果シテ家賃ヲ拂ハントヲ轉ルヤ否  
ヤ家屋ヲ損セシメタルヤウ住居スルヤ否ヤ又必要ナル修繕ヲ爲スヤ否ヲ問

直シタル上ニ非サレハ貸與セザルヲ常トスルノミナラス借賃ノ支拂時期如何  
ナル修繕ハ家主ニ於テ負擔シ如何ナル修繕ハ借主ニ於テ負擔スルカ又貸借期  
間若シ之ヲ定メタルトキハ何時ニテモ立退ヲ請求シ又ハ家屋ヲ明渡スコトヲ  
得ルヤ否ヤ或ハ二週間若クハ一箇月前ニ之ヲ申込ムニ非サレハ明渡ヲ爲シ又  
ハ之ヲ要求スルコトヲ得タルヤ等ヲ定ムルニ非サレハ本々契約ノ内容定マレ  
ナト云フコトヲ得サレハナラ次ニ停車場ニ指示セザル鐵道ノ貸受及ヒ時間表ハ  
申込ナルヤ否ヤ是レ亦頗ル議論アリト雖モ予バ申込ナリト信ス其理由ハ契約  
ノ内容總テ定マレルヲ以テナリ故ニ旅客ノ何人タルヲ問ハズ尙モ警察上ノ規  
定ニ觸レサル限りハ切符ノ賣渡ヲ拒ムコトヲ得然レトモ其申込タルヤニ定  
ノ時刻ニ一定ノ列車ヲ發シ以テ乘車セシムルコトヲ申込マルニ止マリ旅客ノ  
希望ニ依リ幾輛ニテモ發車スルコトヲ申込ミタルニ非サルヲ以テ第一ノ列車  
若シ滿員ト爲ルトキハ第二ノ列車ニ乗ラサルコトヲ得ス唯其旅客ノ何人タル  
コトヲ理由トシテ乘車ヲ拒絕スルコトヲ得サルヲミ隨テ其實登リ拂ヒ乘車セ  
シコトヲ申出タル者アルトキハ此ニ契約成立スルシ此等ノ點ハ會議ヲ存ス



ル所ナルモノ右ノ如ク信セリ尙ホ他ニ廣告類似ノモノナキニ非スト雖モ以上述フル所ニ據リテ類推スルコトヲ得ン次ニ民法ニ規定セル特別ノ廣告即チ懸賞廣告ニ付テ説明スヘシ

右ニ述ヘタル如ク廣告ナルモノハ我民法ノ採用セル主義即チ予カ最モ確當アリト信スル主義ニ於テハ其目的確定セル以上ハ之ヲ以テ契約ノ申込ナリトスルニ在リ然レトモ懸賞廣告ナルモノハ其性質一種特別ノモノニシテ種々疑ハシキ問題ヲ生スルカ故ニ法律ハ之ニ關シ稍々詳細ナル規定ヲ置ケリ即チ第五百二十九條以下ノ規定是ナリ

懸賞廣告ニハ種種アリ今二三ノ例ヲ示セハ飼犬ノ逃走シタル場合ニ於テ之ヲ捕ヘ來リタル者ニ若干ノ謝金ヲ與フル旨ヲ廣告スルコトアリ此種ノ廣告ハ新聞紙上展見ル所ニシテ外國ニ於テモ其例多シ又時トシテハ前例ニ於テ犬ノ所在ヲ報知シタル者ニ報酬ヲ與フル旨ヲ廣告スルコトアリ而シテ此類ノ廣告ハ人ニ付テモ往見ル所ニシテ或者ノ所在ヲ知ラシムル爲メ其者ノ居所ヲ報知シタル人ニ若干ノ謝金ヲ與フル旨ヲ廣告スルカ如キハ其例ニ之シカラス或ハ

定ノ條件ヲ以テ小説ヲ著リ優等ナル者ニ賞金金牌其他賞品ヲ與フル旨ヲ廣告スルコトアリ或ハ又或目的ノ爲メ最モ便利ナル發明ヲ爲シタル者ニ賞金若クハ金牌ヲ與フル旨ヲ廣告スルコトアリ現ニ大歐ニベネツトノ蔓延シタル際賞金ヲ懸ケテ捕鼠器ヲ募集シタルコトアリ其他商店ニ依リテハ最モ新新ナル廣告ノ方法若クハ商標又ハ看板トシテ最モ人目ヲ惹クヘキモノヲ案出シタル者ニ賞金ヲ與フル旨ヲ廣告スルコトアリ此等ノ廣告ハ孰レモ第五百二十九條以下ノ規定ニ依リテ支配セラレルモノニシテ予ノ見ル所ヲ以テスレハ畢竟懸賞契約ノ申込ニ外ナラヌト雖モ其意思表示ノ方法普通ノ場合ト異ナルカ故ニ請負契約ノ一般ノ規定ニ依ラシムルコトヲ得タルナリ故ニ普通民法ノ如キハ之ヲ一種特別ノ法律行爲トシテ規定セリ

懸賞廣告ハ前述ノ如ク其性質契約ノ申込ナルニ拘ハラヌ多少普通ノ場合ト異ナリ異ニスルカ故ニ直チニ契約ノ成立ニ關スル一般ノ規定ヲ適用スルコトヲ得ヌ即チ廣告ハ對話者間ノ行爲ナルカ將テ隔地者間ノ行爲ナルカニ付テ先ツ懸賞生ス而シテ其相手方如何人ニシテ何レノ地ニ在ルカ未タ定メラザルヲ以

男普通ノ對話者間又ハ不隨地將問ヲ行爲同非之ルコト勿論ナリト雖モ相面シテ談話原爲ニ非之ルカ故ニ釋論上之ニ隨地將問ヲ行爲ト觀ルモ故ニ不可來カ所ヘリ然レトモ其相面方一定性ヲ加テ以テ例ヘハ第五百二十六條ノ如キ規定ヲ直ニ適用スル能ク其得唯第五百二十六條ノ規定ニ適用上其適用アリ云フコトヲ得之ヲ非之ト雖モ實際ニ於テハ殆ト其適用ヲ見ルコトナカルヘシ何レカハハ無實廣告ナリトモ之ニ對シ單ニ承諾ノ通知ヲ爲スルヲ以テ足レトモ然レモ非之例ニ其搜索ノ何犬ヲ捕テ來ル者ハ居所ヲ報知シ其他契約ノ履行ヲ爲スルノ同時ニ承諾ノ意思表示ヲ爲スルモノニ單ニ承諾ノ通知ヲ爲スル如キハ實際ノ慣習ニ於テモ絶無ナリ故ニ第五百二十六條第二項ノ適用ヲ見ルコトナカルヲ要スルニ意思表示ノ方法普通ノ場合ト大ニ異ナルカ故ニ法律ハ特別ノ規定ヲ必要トシタルナリ雖モ予ハ廣告ノ契約ノ申込ナルコトヲ信スル者ハ其力故ニ第五百二十六條以下ノ規定ニ依テ性質上廣告ニ適用スルコトヲ得ルモノナリ除キ他何實廣告ニ適用シタル妨ナシ

債ス例ヘハ第五百二十六條第二項承諾ノ期間ヲ定メタル契約ノ申込之ヲ取消スルコトヲ得トノ規定ノ如キ之ヲ廣告ニ適用シテ毫モ不可アルコトナシ唯實際ニ於テハ承諾者其單ニ承諾ノ意思表示ヲ爲スル非シテ廣告者力定メタル行爲ヲ其期間内ニ爲スヲ常トシ力故ニ承諾ノ意思表示ニ付キ同條第二項ノ適用ヲ見ルコトナカルヲ要スル此點ニ付テモ後ニ説明スル如ク特別ノ規定アリハ國體上ハ適合ニ付テ要求スルモノナリ然レモ其懸賞廣告ニ關スル原則ハ第五百二十九條ニ規定セリ曰ク「懸賞廣告ニ依テ行爲ヲ爲シタル者ニ一定ノ報酬ヲ與フ」旨ヲ廣告シタル者ハ其行爲ヲ爲シタル者ニ對シテ其報酬ヲ與マル義務アリハ「懸賞廣告」ニ關シテハ此規定ヲ請負契約ノ定義ト對照スルトキハ予カ上ニ説明シタル所ニ付キ思ヒ字ハニ過タルモノアルヘシ請負契約ニ付テハ第六百三十二條「請負ハ當事者ノ一方カ或仕事ヲ完成スルコトヲ約シ相手方其仕事ノ結果ニ對シテ之ヲ報酬ヲ與フルコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ズ」トアリ即チ第五百二十九條「履行ヲ爲シタル者」ト云ヘバ第六百三十二條「或仕事ヲ完成スルコトヲ約



以下云々。三、當り或行爲ヲ爲シ其結果増上ニ定メ報酬ヲ與フ其結果爲仕事ノ結  
果ニ對シテ報酬ヲ與フルニ外ナラシテ其意思表示ニ對シ相手方其行爲  
ヲ爲スト其意ニ承諾ヲ爲シタルモノニ對シテ報酬ヲ拂ハベキ義務ヲ  
生スルモノナルカ故ニ先ニ總則第百二十六條第ニ項ヲ適用アリト云フ  
モノト妨ケス其意ニ承諾ヲ爲シタルモノハ其意ニ承諾ヲ爲シタルモノニ對シテ  
懸賞廣告ニ付テ普通ノ場合ニ於テハ敢テ困難ナル問題ヲ生スルコトナレバ  
ハ逃走セラル同犬ヲ捕ヘ來リタル者ニ金十圓ヲ與フニ付テ廣告タル場合ニ  
於テ之ヲ捕ヘ來リタル者アルトキハ其意ニ承諾シ金十圓ヲ與フレハ足レリト雖  
モ法律ハ種種ノ困難ナル場合ニ付キ規定ヲ爲セリ即チ第一ニ若シ廣告者其  
意思ヲ變更シタルトキハ其廣告ヲ取消スルコトヲ得ルヤ否ヤニ付キ疑アリ予  
廣告ヲ以テ申込テ得ル所カ故ニ其意ニ承諾ヲ以テ之ヲ取消スルコトヲ得ル  
ヘカラズト猶云而シテ廣告タル場合ニ於テハ定メタル相手方ナキヲ以テ之ヲ  
取消スル付キ普通ノ場合ニ於テハ其意ニ承諾ヲ以テ之ヲ取消スルコトヲ得  
通ノ場合ニ於テハ承諾期間ヲ定メタルモノハ其意ニ承諾ヲ以テ之ヲ取消スルコトヲ得

ス而シテ其期間ヲ經過スルトキハ申込ヘ當該期間ヲ失フヤ其承諾期間ハ  
定メキ場合ニ於テモ申込者承諾人通知ヲ受ケルニ相當ナル期間ヲ其申込ヲ  
取消スルコトヲ得ス然ルニ是ノ多クハ確定メタル相手方アル場合ニ於テノミ  
必要ナル制限ニシテ相手方ノ定メタル場合ニ於テハ如モ其意ニ承諾スル  
必要ナシ何トナレハ或人ニ對シテ申込ヲ爲シタル場合ニ於テハ相手方承諾  
ヲ爲スヘキコトヲ豫期セリト雖モ廣告ノ場合ニ於テハ之ニ應スル者アルヤ否  
ヤモ未定ニ屬シ總合之ニ應スル者アルトキハ何人カ之ニ應スル者アルヤ否  
ハコトヲ得ス故ニ普通ノ場合ニ於テハ如キ制限ヲ設ケルノ必要ナシ是以  
テ獨逸民法ノ如キハ廣告ヲ以テ獨立ノ行爲ト看做セラルト云フ之ヲ取消ス  
許セリ然リト雖モ其取消ノ方法ニ付テハ多少困難ナル問題ヲ生ス他ナシ廣告  
ナルモノハ種種ナル方法ニ依テ行ハルモノニシテ或ハ貼紙ヲ爲シテ廣告  
ヲ爲シ或ハ新聞紙ニ掲載シ或ハ官報ニ掲載スル等其方法枚舉ニ遑ラズ殊ニ  
新聞紙ノ如キハ幾百千ノ種類アルヲ以テ甲ノ新聞紙ニ廣告ヲ爲スト乙ノ新聞  
紙ニ廣告ヲ爲ストハ固ヨリ同カラス故ニ廣告ニ依リ契約ヲ申込テ爲シタル

者之ヲ取消スニモ亦廣告ヲ以テ其意思表示ヲ爲スコトヲ要スルヤ否ヤ又廣告ヲ以テ取消ヲ爲スコトヲ要スルモノトセハ果シテ如何ナル廣告ノ方法ヲ取ルヘキカ是レ廣告ノ取消ニ關スル一ノ問題ナリ次ニ立法者ハ單ニ承諾ノ意思表示ヲ爲スヘキ期間ヲ定メテ爲ス廣告ハ實際絶無ナリトシテ規定ヲ設ケタルヲ故ニ萬一此ノ如キ場合ヲ生シタルトキハ第五百二十一條ヲ適用スルノ外ナシト雖モ之ニ反シ其行爲ヲ爲スヘキ期間ヲ定ムルハ事ロ普通通ナリトス而シテ此場合ニ於テハ承諾期間ノ定アル場合ト同一視スヘキヤ否ヤ問題トス即チ第五百三十條ハ此二箇ノ問題ニ關スル規定ニシテ要スルニ取消ノ方法ハ初メ廣告ヲ爲シタルト同一ノ方法ニ依ルコトヲ要シ若シ同一ノ方法ヲ以テ取消ヲ爲スコト能ハサルトキハ他ノ方法ニ依ルコトヲ得ルモノトセリ即チ同一ノ方法トハ例ヘハ貼紙ヲ以テ廣告ヲ爲シタル場合ニハ之ヲ取消スニモ亦貼紙ヲ以テスルノ類ナリ然レトモ其貼紙ハ何レノ場所ニ貼附スルモ可ナリト謂フコトヲ得ス甲ノ場所ニ貼紙ヲ爲スト乙ノ場所ニ貼紙ヲ爲ストハ著シキ相違アリト謂ハタルヘカラス然ルニ前ニ貼紙ヲ爲シタル場所ニハ既ニ貼紙ヲ爲スコトヲ

禁セラレ或ハ前ニ貼紙ヲ爲シタル家屋カ既ニ存在セタルコトアルヘシ此ノ如キ場合ニ於テハ同一ノ方法ヲ以テ之ヲ取消スコトヲ得ス又新聞紙ニ廣告ヲ爲シタル場合ニ於テモ初メ廣告ヲ掲載セシ新聞紙カ既ニ廢刊シ又ハ發行禁止ト爲レルトキハ是レ亦前ト同一ノ方法ヲ以テ取消ヲ爲スコトヲ得ス是レ實際廢刊運送スヘキ事實ナルヲ以テ此ノ如キ場合ニ於テハ他ノ方法ニ依ルコトヲ許セリ以上ハ第五百三十條ノ規定スル所ニシテ同條第一項及ヒ第二項ニ曰ク前條ノ場合ニ於テ廣告者ハ其指定シタル行爲ヲ完了スル者ナキ間ハ前ノ廣告ト同一ノ方法ニ依リテ其廣告ヲ取消スコトヲ得但其廣告中ニ取消ヲ爲キタル旨ヲ表示シタルトキハ此限ニ在ラス又前項ニ定メタル方法ニ依リテ取消ヲ爲スコト能ハタル場合ニ於テム他ノ方法ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得但其取消ハ之ヲ知リタル者ニ對シテハ其效力カヲ有ス右ノ第一項但書ノ規定ハ萬一ノ疑ヲ生セシコトヲ慮リ特ニ之ヲ加ヘタルモノナリ蓋シ本文ノ規定ハ取消ヲ爲スル規定ニ非タルカ故ニ反對ノ意思表示ヲ許スニ

コト能ハナドキハ已ムヲ得タルヲ以テ他ノ方法ニ依ルコトヲ許スノ外ナシ  
然レトモ此場合ニ於テハ前ノ廣告ヲ覽タル者ハ必スシモ取消ノ廣告ヲ覽ルヨ  
トヲ期スヘカヲサルカ故ニ唯其取消ヲ知リタル者ノミニ對シ效力アルモノト  
セリ隨テ其取消ヲ知ラサル爲メ指定ノ行爲ヲ爲シタル者アルトキハ之ニ對シ  
報國ヲ拂フノ義務ヲ免ルルコトヲ得ス而シテ此規定ノ如キモ固ヨリ反對ノ意  
思表示ヲ許スモノナラ例ヘハ貼紙ヲ以テ廣告ヲ爲スニ當リ之ヲ取消ス場合ニ  
於テハ新聞紙ヲ以テ廣告スル旨ヲ附記シ又ハ新聞紙ヲ以テ廣告ヲ爲ス場合ニ  
於テモ之ヲ取消ス場合ハ他ノ新聞紙ニ轉載スルコトアル旨ヲ附言セルトキハ  
取テ公益ヲ害スルコトナキヲ以テ其意思ニ從ハサルヘカヲ然レドモ是レ實  
際ニ稀ナルヘキヲ以テ第一項但書ヲ如キ規定ヲ置カスニ由リ新聞紙ニ登載  
第二ノ問題ハ第五百三十條第三項ノ規定ニ所ナリ曰ク同一紙ニ於テ同一  
廣告者ハ其指定シタル行爲ヲ爲スニ對シ期間ヲ定ムタルモノハ其取消權ヲ擁  
集シタルモノトシテ推定スル旨廣告ノ場合ニ於テハ其指定ノ行爲ヲ爲スニ對シ  
此規定ハ規定ノ推定下言定ル爲敵ト反對ト意思表示ヲ許スルコトヲ明瞭ナリ



民衆實踐 國のソ成立

九九〇

前二項ノ規定ハ廣告中ニ之ニ異ナリタル意思ヲ表示シタルトキハ之ヲ適用  
敵人ノ廣告ニ定タル行為ヲ爲シタル場合於其害中惡意等無差違ニ之ヲ報  
酬ヲ與ルルコトヲ欲ス此場合於其害中又無差違ニ惡意等無差違ニ之ヲ報  
酬人ノ於テ之ヲ定タルカ如何ニシテ之ヲ定タルカ又何種ノ意ヲ其行為  
爲シタル者ニ就キ優等者又惡意等者カ其行為又爲シタル者ノ損限確定  
トキハ廣告者ノ幾日ヲ經過スルヲ報酬額與ヘテ而シテ其行為爲シタル者  
又報酬額ノトキハ向キ報酬者ノ出タル者ヲ知ルベシト稱徒然モ以テ不運延  
ルコトナシトモ此ノ如キ場合於其害中法律上廣告者ノ報酬額與ヘテ而シ  
テ先ツ第一項ノ右ノ第二ノ問題ヲ決シタルハ廣告者ノ報酬額與ヘテ而シ  
テ廣告ニ定タル行為又爲シタル者敵人ノ於其害中又無差違ニ惡意等  
ノ報酬額與ヘテ而シテ其廣告ノ報酬額與ヘテ而シテ其報酬額與ヘテ而シ  
テ第一ノ問題ハ同條第二項第三項ノ規定ニ基キ報酬額與ヘテ而シテ其報

タリト雖モ多少延ノ生ズル虞アルヲ以テ特ニ規定ラザルヲ以テ其害中  
前項ノ場合ニ於テ惡意等中何人ノ行為カ惡意等ナルカハ廣告者ノ報  
酬額ノ判定スル廣告中判定者ヲ定タルカ如何ニシテ之ヲ判定スル意思  
ニ應答者ノ前項ノ判定ニ對シテ惡意等ノ過フルカ如何ニシテ之ヲ判定  
尤モ之ニ付タル或ハ反對ノ意思表示ヲ爲スルコトアルカ如何ニシテ之  
レハ廣告者ノ判定ヲ爲スル意思等者カ之ニ服セサルコトアルカ如何ニシ  
之ヲ申出ツルハ其申出タルトキハ別ニ判定者ヲ定タルカ如何ニシテ之  
ト云フカ如キ廣告ヲ爲スルコトアルカ如何ニシテ之ヲ判定スル意思等  
ナルヘキヲ以テ法律上特ニ反對意思ニ對シテ規定ラザルハ又同條第四項  
タリト雖モ多少延ノ生ズル虞アルヲ以テ特ニ規定ラザルヲ以テ其害中  
敵人ノ行為カ何等ト判定スルカ如何ニシテ之ヲ判定スル意思等者  
是レ西洋ニ於テモ日本ニ於テモ大抵然ル所ニシテ二人以上ノ者ハ成該同等  
シテ優等者ナキコト屢アリ此ノ如キ場合ニ於テハ前條ノ敵人與同時ニ同  
行爲ヲ爲シタル場合ト同シ之ニ應スル困難ナシヲ以テ通常少場合ニ於テ



更法實情 變時之費本

ルトキハ右ノ如クモテ其ノヨリタル所ヲ三合ニモ亦能ク成ルベシ云々

以上ヲ以テ懸賞廣告ノ說明アリ同様に契約ノ成立ニ關係スルモノハ説明アリ

第二款 契約ノ效力

契約ハ當事者間ニ於テ法律ニ等シキ効力ヲ有スルモノ從來學者ノ一般ニ唱テラル  
所ニシテ殆ト斷言ノ如ク爲レ然レトモ其意義ニ付テハ動モスレハ誤解ヲ來  
スコトナルヲ以テ最モ注意ヲ加ヘサルカラス抑モ當事者間ニ於テ効力ヲ有  
ストハ其裏面ニ於テ第三者ニ對シテ該効力ヲ有セサルノ意ニシテ契約ノ生  
アル義務ハ原則トシテ第三者ニ於テ負擔スル所ナラズ又契約ノ生ズル權利  
ハ第三者ノ利益ト爲ラザルヲ原則トスル所ナリ而シテ所謂當事者中ニ於  
テ承繼人ヲ包括含スル所ナリ注意應サレ共テ承繼人並ニ權利義務含承繼人  
人ノ間ニシテ包括承繼人者特定承繼人前ノ二種アリ包括承繼人則チ大財産  
ニ屬スル權利ト其共同債務額ヲ引登テ承繼者ニ對例ハ其手ノ現在所有モ州財  
產全部ヲ舉例他夫ニ與フ所モ手取債權ヲ依然トシテ手取負債ニ屬スル物也





向自己カ債權者ナル乙ト主張スルコトヲ得タルヲ持バラス甲ヨリ其債權ヲ讓受ケタル丙ハ自己カ債權者ナル乙ト主張スルコトヲ得ル即チ甲ヨリ其債權者ニ對シ其債權ヲ丙ニ讓渡シタルニ對シ通知給ヘル其必要ヲ通知セザリシハ乙ハ承繼人ハ當事者ニ等シ故チ原則ニ於テ此ハ如キ場合ニ於テハ法律ハ丙ヲ第三者ト看做スル故チ丙ハ其讓受タル乙ニ對シスルコトヲ得ルナリ何トナレハ甲乙間ニ讓渡行為カ他人者ニ對シテ効力ヲ生スルニハ讓渡人ヨリ之ヲ其債權者ニ通知シ若クハ債權者ハ承諾ヲ得ルコトヲ必要トシ而シテ甲乙間ノ行為ニ干與セザル者ハ皆其行為ニ付テ第三者ナルカ故ニ甲乙間ノ行為ハ之ヲ第三者ナル丙ニ對シスルコトヲ得ス之ニ反シ甲丙間ノ行為ニ付テハ其手續ヲ踐スルカ故ニ之ヲ其行為ノ第三者タル乙ニ對シスルコトヲ得レハナリ是レ單ニ一例ヲ示シタルニ過キスト雖モ此ノ如キ場合ハ校學ニ追フラス然ルニ初學ノ徒ハ往往ニ此ノ之ヲ誤解スルコトアリ嘗ニ初學ノ徒ノミナラス堂堂タル學者ニシテ之ヲ誤解セシ者少カラズ故ニ特定承繼人ハ問題ノ如何ニ因リ或ハ承繼人ハ地位ニ立テ或ハ第三者ハ地位ニ立ツコトアルヲ

忘ルヘカラス即チ右ノ例ニ於テ丙カ甲ノ權利ヲ讓受タル點ヨリ見レハ其承繼人タルコト論ヲ埃タス隨テ甲ノ有セシ權利ヲ有スルト同時ニ其權利ニ義務ヲ伴ヘルトキハ其義務ヲ併セテ承繼セサルヘカラス例ヘハ其讓受タル權利カ債權ナルトキハ之ニ伴フ借貸支拂ノ義務モ承繼セサルヘカラスルカ故ニ其貸與人ハ丙ニ向テ其借貸ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得シト雖モ甲乙間ニ於ケル他ノ法律行為ニ付テハ法律ハ之ヲ第三者トシテ保護セザルカ故ニ其行為ヲ認メザルコトヲ得ルナリ茲ニソナード氏ハ此問題ヲ困難ナルコトヲ略シ法律行為ノ前後ヲ以テ之ヲ區別セントセシモ到底此ノ如キ簡單ナル區別ノ標準ヲ取ルコトヲ得ス要スルニ法律ハ第三者ヲ保護スル爲メ其問題ト爲レル法律關係ヨリ見テ第三者ナルトキハ他ノ法律關係ニ於テ承繼人タルト否トヲ問ハズハ承繼人ヲモ含ムモノナリト雖モ甲乙間ノ契約カ當事者間ニ於テ効力アリト云フ丙ハ第三者トシテ其効力ヲ受ケタルナリト謂フ其誤ニ因リ丙ハ當事者トシテ右ノ如ク契約ハ當事者及ニ其承繼人間ニ於テノミ効力アルモノニシテ第三者

ハ其契約ニ因リテ權利ヲ得若クハ義務ヲ負フコトナキヲ本則トス而シテ義務ニ付クハ之カ例外アルコトナシ例ヘハ甲乙間ノ契約ニ因リ丙ヲシテ義務ヲ負ハシムルコトヲ得ス唯相續人ノ如ク當事者ノ權利義務ヲ全然承繼スル者ハ格別ナリト雖モ苟モ第三者ナル以上ハ他人間ノ契約ニ因リ義務ヲ負フコト斷シタナシ昔時法律ノ幼稚ナリシ時代ニ在リテハ自己ノ權力ノ下ニ在ル者ニ對シ法律上義務ヲ負擔セシムルコトヲ得タル場合アリシモ今日文明ノ世ニ在リテハ此ノ如キコトヲ認メス例ヘハ親ノ行為ニ因リ子カ義務ヲ負フト云フカ如キ場合アルコトナシ唯親權者ハ未成年ノ子ニ代リテ法律行為ヲ爲ス權限ヲ有スルカ故ニ代理關係ニ因リ親權者ノ行為ノ爲メ未成年ノ子カ義務ヲ負フコトアルノミ又成年者ト雖モ代理關係ニ因リ他人ノ行為ノ結果ヲ受クルコトアルハ固ヨリ論ヲ埃タス然レトモ代理關係以外ニ於テ例ヘハ甲乙間ノ行為ニ因リ全ク無關係ナル丙ニ義務ヲ負ハシムルカ如キハ決シテナシ但多少類似ノ場合アリ例ヘハ甲乙相約シ丙ヲシテ成仕事ヲ爲サシムルコトニ雙方セシト云フカ如キ場合ハ其盡力ヲ爲スハ固ヨリ當事者ノ行為ナルカ故ニ其契約ノ有效ナルコト

ト勿論ナリト雖モ若シ丙ニ於テ承諾ヲ爲サタルトキハ何等ノ效アルコトナシ又例ヘハ甲ナル者乙ニ對シ丙カ乙ノ爲メニ或行為ヲ爲スコトヲ受合ヒ若シ丙ニ於テ其行為ヲ爲サタルトキハ損害賠償ノ責ヲ負フヘキ旨ヲ約シタル場合ノ如キハ其契約ハ固ヨリ有效ナリ然レトモ此等ハ第三者ニ義務ヲ負ハシムル契約ニ非スシテ第三者ハ之カ爲メニ何等ノ義務ヲ負ハサルナリ然レトモ若シ甲カ第三者ノ承諾スヘキコトヲ受合ヒタル爲メ乙ハ甲ノ言フ價シ例ヘハ契約ノ履行ニ關スル準備ヲ爲シ其他財産上ノ損害ヲ受タルコトアルモ知ルヘカラス此場合ニ於テ甲カ其損害ヲ賠償スヘキコトヲ約スルハ何レノ國ノ法律ニ於テモ有效ト認ムル所ニシテ舊法典ノ如キハ特ニ之ヲ明言セリト雖モ是レ固ヨリ規定ヲ要セス普通ノ道理ニ於テ明白ナル所ナリ之ニ反シ權利ニ付タハ昔時ノ法律ハ大抵第三者ニ權利ヲ得セシムル契約ヲ絕對ニ無効トセリ而シテ予ノ信スル所ニ據レハ契約ノ效力トシテ直チニ第三者ノ爲メニ權利ヲ生スルカ如キハ法理上有リ得ヘカラサルコトニシテ立法者カ公益上ノ必要ニ因リ之ヲ認ムルハ必スシモ妨グスト雖モ理論上ニ於テ當然之ヲ認ムルコトヲ得ス然レトモ

此ノ如キ契約カ當事者間ニ於テ手向キ無効ナリト云フニ至リテハ予ハ其何ノ故タルヲ知ルニ苦マサルヲ得テ例ヘハ甲カ乙ニ向キ丙ニ其生存中毎年金千圓宛ヲ與ヘンコトヲ依頼シ乙之ヲ承諾シタル場合ニ於テ甲乙間ニ於ケル契約カ無効ナリト云フハ予ノ承服スルコト能ハサル所ニシテ乙カ其契約ニ基キ丙ニ金千圓ヲ與ヘ丙之ヲ承諾スルコトハ公益上ニ於テモ毫モ害アルコトナシ然ルニ反對論者ハ曰ク利益ナクハ訴權ナシトハ右來ノ格言ニシテ訴權ナキトキハ權利ナキト同一ナリ今第三者ニ利益ヲ與フル契約ハ當事者間ニ於テハ毫モ利益アルコトナク金錢ヲ拂フ者ハ唯不利ヲ見ルイミニシテ其相手方モ亦毫モ自己ニ利益ヲ受ケス故ニ若シ右ノ例ニ於テ乙カ其契約ヲ履行セザルトキハ甲ハ之ニ對シテ訴ヲ起スコトヲ得ス隨テ第三者ニ權利ヲ得セシムル契約ハ無効ナリト是レ從來最モ廣ク行ハルル學說ニシテ舊法典ノ如キハ現ニ之ヲ明言セリ即チ民法財産編第三百二十二條ニハ先ニ述ヘタル第三者ノ義務ニ關スル契約ヲ規定シ第三百二十三條ニハ第三者ノ權利ニ關スル契約ヲ規定セリ先テ同條第一項ニ「要約者カ合意ニ付キ金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ正當ノ利益ヲ有

セザルトキハ其合意ハ原因ナキ爲メ無効ナリトアリ」要約者トハ右ノ例ニ於テ甲ヲ指シ其丙ニ金錢ヲ與ヘシムルコトハ金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ正當ノ利益ヲ有スルモノト云フコトヲ得ス隨テ右ノ如キ契約ハ原因ナキ爲メ無効ナリト曰フニ在リ然レトモ是レ舊法典カ契約ノ要素トシテ原因ヲ認メタル結果ニシテ新法典ニ於テハ原因ヲ必要トセザルカ故ニ固ヨリ其適用ナシ其第三項ニ「第三者ノ利益ノ爲メニ要約ヲ爲シ且之ニ過意約款ヲ加ヘザルトキハ其要約ハ之ヲ要約者ニ於テ金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益ヲ有セザルモノト看做スト」アリ予ハ夙ニ此見解ニ服セザル者ニシテ第三者ニ權利ヲ得セシムルハ金錢上ノ利益ナキコトアルヘク其契約ノ表面ニ現ハレタル利益ハ金錢上ノ利益ナリト云フコトヲ得ザルハ固ヨリナリト雖モ荷重狂人ニ非ザル限りハ故ナク契約ヲ結フコトナカルヘキヲ以テ必ス自己ニ利益アルモノト謂ハサルヘカラス而シテ其利益ハ縱令金錢上ノ利益ニ非ストモ若シハ一層高尚ナル利益アルヤ知ルヘカラス例ヘハ丙カ甲ノ親族又ハ親友ナルトキ若シハ亦實者ナルトキハ甲ハ自己ニ金錢上ノ利益ヲ受ケザルモ親族又ハ親友ノ爲メニ利益ヲ圖リ若シハ

貧困者ノ爲メニ利益ヲ圖ルハ精神上ニ種々快樂ヲ受ル等必ス無形ノ利益アルコト論ナリ又間接ニハ必スシテ金錢上ノ利益ナリトモ本數ハ金錢上ノ利益ナレトスルモ或ハ慈善心ヲ實行シ或ハ愛情ヲ滿タズ等少クモ直接ニ無形ノ利益ヲ受クヘシ面シテ此ノ如キ利益ヲ敢テ公益ニ害ナキモノナラス時トモハ金錢上ノ利益ニ比シ一層社會ニ必要ナル利益ナルヲ以テ法律力之ヲ保護セラルノ理ナシ故ニ利益ナクハ訴權ナシト云フヲ以テ假ニ正當ナリトスルモ此場合ニ於テハ無形ノ利益アルカ故ニ訴權ヲ與ヘテ可ナリ面シテ此事タル從來ノ學者モ略ニ認ムル所ニシテ現ニ舊法典ニモ明カニ規定セル所ノモノナリ蓋シ從來反對論ヲ取レル學者カ殆ト一致セル點ニアリ其ハ明ヘハ甲乙兩人カ自己ノ利益ト爲ルヘキ契約ヲ結ビ之ニ附隨シテ丙ノ利益ト爲ルヘキ事項ヲ定メタル場合ニ於テハ其契約ハ有效ナリトセルコト是ナリ即チ前掲財産編第三百二十三條第三項ニモ然レトモ第三者ノ利益ニ於ケル要約ハ要約者カ自己ノ爲メ爲シタル要約ノ從タリ又ハ諸約者ニ爲シタル贈與ノ從タル條件ナルトハ有效ナリト言ヘリ故チ甲乙間ニ於テ贈與又ハ有價契約者ノ他ノ有效ナル

契約ヲ結ビ其附隨事項トシテ丙ニ利益ヲ與フル契約ヲ結ビタルトキハ其契約ハ有效ナリトモ是レ蓋タ解レ難キ所ニシテ反對論ニ據レハ甲乙間ノ契約ハ甲若クハ乙ノ利益ト爲ルヘキ範圍内ニ於テ有效ナルヘキカ故ニ若シ乙カ其契約ヲ履行セタル場合ニ至リ甲カ自己ノ利益ノ範圍内ニ於テ其履行ヲ求ムルコトヲ得ルハ固ヨリ當然ノ事ナリト雖モ苟モ利益ナクハ訴權ナシト云フ以上ハ第三者ノ利益ハ自己ノ利益ニ非タルヲ以テ第三者ノ利益ニ付テハ訴權ナシト云ハタルヘカラス若シ右ノ如キ場合ニ於テ第三者ノ利益ニ付テハ訴權アリト當ハハ單獨ニ第三者ノ利益ノ爲メニ契約ヲ爲シタル場合ニ於テモ同一ニ論セタルヘカラス其附隨事項ナルカ爲メニ有效ナリト云フハ蓋タ事理ニ反セリ即チ不能ナル事項ハ之ヲ他ニ附隨セシムルモ總シテ不能ナルヘキ他ニ附隨セルカ故ニ可能ナリトモハ單獨ノ場合モ亦可能ナリトセタルヘカラスト信ス其二ハ例ヘハ甲乙間ニ於テ單獨ニ丙ノ利益ト爲ルヘキ契約ヲ結ビ若シ乙カ丙ニ對シ約定ノ行爲ヲ爲サザルトキハ甲ハ過意金ヲ請求スルコトヲ得ル旨ヲ定メタル場合ニ於テハ其契約ハ有效ナリトモリ而シテ其理由トスル所ハ甲ハ其過意約

款ニ付キ利益ヲ有スト云フニ在リ是レ亦頗ル解難キ所ニ洩テ嘗シ丙ノ利益ト爲ルヘキ事項ヲ目的トスル契約カ有效ナラシムルモ其契約ハ履行ヲ確實ナラシメテ過怠約款モ亦有効ナルヘキ即チ過怠約款ハ契約目的ノ非ス別テ萬一契約ヲ履行セタル場合ニ於ケル制裁ナル所故ニ主タル契約モモ有效ナル以上ハ其從タル過怠約款モ亦有効ナルヘキト雖モ主タル契約ノ無効ナルハ拘ハラス其從タル契約ニ因リ主タル契約ヨリ有效ト爲ルヘキ即チ亦廢法典ニ於テハ主タルモノノ無効ナルトモ從タルモノモ亦無効ナルコトヲ言ヘル場合頗ル多キニ拘ハラズ右ノ場合ニ於テハ全ク反對ノ規定ヲ爲セリ是レ畢竟利益ナケレハ訴權ナシト云ヘル據廣ク附ニ東條セラレ餘儀ナク第三者ノ利益ト爲ルヘキ契約ハ無効ナラトフ原則ヲ認メタルモ頗ル實際ニ適キタルヲ以テ之ヲ有效ナラシメント欲シ違ニ應ノ如キ姑息ノ規定ヲ置クニ至リシモノモシテ事ハ其原則ノ認メタルコトヲ證明シタルモノナリ故ニ獨逸民法ノ如キハ第三者ノ爲メニスル契約ノ有效ナルコトヲ認メタリ予ハ之ヲ以テ進步シタル法律ナリト信ス加之若シ舊法典其他從降一般ニ行ハルル學說ニ據リシカ極端ナル場合

ヲ示セハ金一錢ノ贈與ヲ爲シ之ニ附隨シテ他日第三者ニ金千圓ヲ與フヘキコトヲ約スルモ有效ナリト謂フヘキ或ハ極端ナ價格ノ少キ物ヲ賣買シ之ニ附隨シテ第三者ニ巨額ノ金錢ヲ與フヘキコトヲ約スルモ等シク有效ノ契約ト爲リ殆ト兒戲ニ類スル結果ヲ生スヘキモノトモ認メタル第三者ノ利益ト爲リ以上述ヘタル所ニ據リ第三者ノ利益ヲ目的トスル契約ハ縱令單獨ニ第三者ノ利益ヲ目的トスルモ又他ノ契約ノ附隨事項トシテ之ヲ爲シタル場合ニ於テモ總テ有效ニシテ當事者間ニ於テハ他ノ契約ト同シテ之ヲ履行スルコトヲ要シ若シ當事者ノ一方カ履行ヲ爲ササルトキハ相手方ハ之ヲ強制スルコトヲ得ルハ殆ト疑ナカルヘキト信ス新民法ニ於テモ此主義ヲ採用シテ唯問題ト爲ルハ先ニ一言シタル如ク契約ノ目的タル第三者ノ利益カ直チニ第三者ノ權利トシテ發生スヘキヤ否ヤニ在リ即チ前例ニ付テ言ヘバ甲乙間ニ於テハ其契約ハ有效ニシテ直チニ權利義務ヲ生シ甲ハ乙ヲシテ丙ニ年金千圓ヲ拂ハシムル權利ヲ有シ乙ハ甲ニ對シテ丙ニ金千圓ヲ拂ハ義務ヲ負ナルコトハ論ナシ且雖モ丙カ其千圓ヲ受タル權利ヲ直チニ取得スルヤ否ヤ問題トス蓋シ純然タル理

論ヨリ言ヘハ第三者即チ前例ニ於テ再カ其權利ヲ得ル爲メニハ新ナル行爲ヲ  
 カルヘカラス而シテ多クノ場合ニ於テハ丙ト乙トノ間ニ第二ノ契約成立スル  
 コトヲ要シ然ラサル場合ニ於テモ甲ト丙トノ間ニ第二ノ契約成立シ例ヘハ甲  
 カ自己ノ權利ヲ丙ニ與フルニ非サレハ乙ト丙トノ間ニ效力ヲ生スルコトナシ  
 換言スレハ契約ハ當事者間ノ關係ナルヲ以テ無關係ナル第三者カ權利ヲ得又  
 ハ義務ヲ負フヘキ謂レナシ然レトモ便宜法トシテハ寧ロ第三者カ權利ヲ取得  
 スルモノトスルヲ以テ無用ノ手數ヲ省キ實際ニ益アリト信ス何トナレハ苟モ  
 甲乙間ノ契約ヲ有效ト認ムル以上ハ其契約ノ履行セラルルコトハ當事者  
 ニ於テモ固ヨリ望ム所ナルヘタ又法律ノ希望スル所ナレハナリ而シテ是レ取  
 テ第三者ニ義務ヲ負ハシムル問題ニ非ス第三者ニ權利ヲ得セシムル問題ナル  
 カ故ニ通常第三者ニ取リテモ利アリテ害ナカルヘシ故ニ第三者カ其利益ヲ受  
 クル意思ヲ表示シタルトキハ直チニ權利ヲ取得セシメテ可ナリ敢テ新ナル契  
 約ヲ締結セシムルコトヲ要セス是ヲ以テ新民法ニ於テハ右ノ便宜主義ヲ採レ

向ホ一ノ問題アリ即チ何レノ國ノ法律ニ於テモ第三者ノ欲セサルニ拘ハラヌ  
 強ヒテ權利ヲ取得セシムルモノアラヌ隨テ第三者カ其利益ヲ受クルコトヲ欲  
 セサル旨ヲ表示シタルトキハ其契約ハ第三者ノ利益ト爲ラス此場合ニ於テ如  
 何ナル結果ヲ見ルカ即チ其契約ニ因リ第三者カ直チニ權利ヲ取得シ唯後日之  
 ヲ拒ムコトヲ得ルモノトスヘキカ將テ第三者カ其利益ヲ受タル意思ヲ表示シ  
 タル時ニ於テ始メテ其權利ヲ生スルモノトスヘキカニ付キ議論アリ獨逸民法  
 ノ如キハ第一ノ主義ヲ取リ甲乙間ノ契約成立スルト同時ニ第三者カ其權利ヲ  
 得ルモノトシ若シ第三者カ之ヲ欲セサル意思ヲ表示スルトキハ其權利消滅ス  
 ルモノトセリ是レ時トシテハ多少ノ利害ヲ異ニスルモノニシテ例ヘハ所有權  
 ノ移轉ヲ目的トセル場合ニ於テハ所有者ト爲ルヘキ日ヲ異ニシ之カ爲メニ種  
 種ナル結果ヲ生スヘシ又果實等ニ付テモ別段ノ定ナキトキハ權利取得ノ日ヨ  
 リ果實ノ上ノ權利元物ノ上ノ權利者ニ屬スルカ故ニ契約成立ノ時ヨリ權利ヲ  
 生スルト第三者カ意思ヲ表示シタル時ヨリ權利ヲ生スルト大ニ其結果ヲ異  
 ニス故ニ此問題ハ机上ノ空論ニ非スシテ實際上利益ヲ問題ナリ而シテ新民



法ニ於テハ第三者ガ承諾ニ意思表示シタル時ニ其權利ヲ生ズルモノトシテ予ハ新民法ノ規定ヲ以テ釋當ナリト信ス何トナレハ元來甲乙間ニ契約ニ因リ第三者タル丙ニ權利ヲ取得スルモノ既ニ變則ナリ即チ正則ニ言ベシ少クトモ甲若クハ乙ト丙トノ間ニ第二ノ契約成立スルニ非ザレハ丙ニ權利ヲ生ゼタルモノトセザルヘカラス然ルニ便宜上新ナル契約ヲ必要トセズ單ニ第三者ガ利益ヲ受クル意思ヲ表示スルニ足リトシタルモノナラ然ルニ獨逸法ノ如ク第三者カ何等ノ意思ヲ表示セザルニ拘ハス契約ト同時ニ權利ヲ取得シ他人間ノ契約ニ因リ自己ノ知ザル間ニ權利者ト爲ルモノトスルカ如キニ縱令法律ノフイラクシシニ因ルト雖モ頗ル極端ニ失シタルモノト謂ハサルヘカラス故ニ第三者カ承諾ヲ爲スマテ權利發生セタルモノトスルヲ釋當トスレバナリ若シ之カ爲メニ果實其他ノ點ニ付キ當事者ノ希望スル結果ニ反スルトキハ特ニ其旨ヲ附加スレバ可ナリ是レ新民法カ獨逸法ノ主義ヲ取ラヌシテ右ノ第二ノ主義ヲ採用シタル所以ナリ即チ第五百三十七條ニ曰ク

契約ニ依リ當事者ノ一方ガ第三者ニ對シテ或給付ヲ爲スヘキコトヲ約シタ

ルトキハ其第三者ハ債務者ニ對シテ直接ニ其給付ヲ請求スル權利ヲ有スル前項ノ場合ニ於テ第三者ハ權利ハ其第三者カ債務者ニ對シテ契約ノ利益ヲ享受スル意思ヲ表示シタル時ニ發生スルニ依リテ見レハ甲乙間ノ契約ハ第三者カ其契約ノ利益ヲ受ケントノ意思ヲ表示シタル時ニ至リ始メテ第三者ニ權利ヲ取得セシムルモノナリ即チ其時ニ至リ第三者ハ始メテ債權者ト爲ルナリ其結果所有權ヲ目的トスル契約ノ如キハ所有權ガ直チニ移轉スルモノト爲ルヘシ而シテ其意思表示ハ債務者ニ對シテ之ヲ爲スヘキコトヲ規定セリ是レ元來契約ニ非タルヲ以テ立法者カ如何ナル規定ヲ設クルモ其隨意ナリト云フコトヲ得ヘシト雖モ畢竟契約ノ利益ヲ受ケントスルモノナルヲ以テ當事者ノ一方若クハ雙方ニ其意思表示ヲ爲スヘキハ殆ト疑リ容レサルモノ即チ雙方面シテ其意思ヲ表示スルモノ何等ノ效力ヲ有トナシ然レトモ其雙方其對シテ之ヲ爲スヘキカ將テ債權者ニ對シテ之ヲ爲スヘキカ或ハ債務者ニ對シテ之ヲ爲スヘキカ雙方ノ中孰レカ其方ニ之ヲ爲スヘキカナリトスヘキカ判別多岐難決存スル所ニシテ新法典ニ於ケル中ニ就テ嚴

便利ナル主義ヲ取リ債權者ニ對シテ其意思ヲ表示スルモノトモテ第三者ノ承諾ヲ爲シタル結果第三者ハ債權者ノ債權者ト爲リ債權者ハ第三者ハ債權者ト爲ルモノニシテ其法律關係ハ債權者ト第三者ト之間ニ生ズルモノナルカ故ニ今日相手方ニ非スト雖モ將亦相手方ト爲ルヘキ債權者ニ對シテ其意思ヲ表示スルコト最モ便利ニシテ又最モ穩當ナレバ然レトモ是レ契約ニ非サルヲ以テ債權者ヲ第三者ニ對シ契約ノ申込ヲ爲スニ非ス又第三者ハ債權者ニ對シ申込ヲ爲スニ非ス單獨行爲ニ因リ權利ヲ生ズルモノナレトモ此ノ場合ヘカラス舊法典ニ於テハ先ニ述ヘタル如ク他ノ契約ニ附隨事項トシタル場合又ハ之ニ同意約款ヲ附シタル場合同意約款ハ新民法ニ規定賠償額ト云ヘルニ當ルニ其契約ノ有效ナルコトヲ認メタリ然レトモ財產編第三百二十三條ニ當約者即チ債權者ト債務者トノ間ニ於ケル關係ヲ定ムルニ止マリ第三者ノ權利ニ付キ何等ノ規定ヲ爲サズ唯同編第三百二十五條ニ於テ或點ニ付キ間接ノ規定ヲ爲セリト雖モ畢竟第三者カ如何ナル權利ヲ取得スヘキカ明カナラス而シテ通常佛蘭西學者等ノ說ク所ニ據レハ此場合ニ於テハ甲ト丙トノ間ニ贈與成

コトヲ得ヘキヤ言フ埃タス

第二、債務ノ擔保財產保護與ノ義務

本人ハ管理權者カ本人ノ爲メ有爲ナル債務ヲ負擔起スルト兼換言テ事務ヲ管理ヲ爲スニ當リ其債務ヲ負擔セザルニ止マズ本人ハ不利益ナル場合ハ負擔セザル債務ハ本人自覺代リ其管理權者ハ相當ノ擔保ヲ供セシメ得ルモノトシ而シテ物未到來ト場合ニ於テハ管理權者ハ相當ノ擔保ヲ供セシメ得ルモノトシ而シテ物件又屬テ擔保者ハ場合ハ擔保權者カ質權設定ノ規定ニ依リ保護權利ハ原則ニ第四百五十條ノ規定ニ據リ負擔ナシトシ而シテ其債務ノ擔保者ト得ルハ第六百五十條第二項ニ於テハ必要ト認ムヘキ債務ト云ヒ第七百二條ノ規定ハ「本人ノ爲メ有爲ナル債務ヲ爲スハ二者其意圖ヲ異ニスル所アリ」則チ總括委任ノ場合ニ於テハ委任事務ニ必要ナル事項ニ非サレハ委任事務ノ處理ト謂フコトヲ得ス故ニ其必要ナル者ハ債務ハ委任ノ履行ニ關係力キ者ハ則チ附屬ト得ヘキ隨テ必要ト認ムヘキ債務以外ハ本人カ負擔スヘキ債務ナルコト右レ之ニ反シテ事務管理權ノ場合ニ於テハ管理權者カ本人ノ爲メ爲サレタスル

七、費ハ半富ニ達ス

## 第四章 不當利得

第四章 不當利得

不當利得トハ法律上ノ原因ナクシテ他人ノ財産又ハ勞務等因テ利益ヲ受ル之  
カ爲メ他人ニ損失ヲ被シシムルヲ謂フ(第七〇三條左ニ之ヲ分析シテ説明ス)

第一 利益ヲ受ケタルノ事實アルコトヲ要ス

其利益トハ此場合ニ於テハ財産上ノ利益即チ財産權ノミヲ指スモノナルヤ普通然リト雖モ必スシテ然ラス例ヘハ法律上ノ原因ナクモ觀測シ以テ快樂ヲ得タルトキノ如シ但其快樂ハ之ヲ財産上ノ利益ニ俟フルコトヲ得ルモノナラサルヘカヲサルヤ勿論ナリ何トナレハ若シ然ラスシハ之ヲ返還シ得タルヘケレハナリ是レ第七百三條ニ於テ其利益ノ存スル限度ニ於テ之ヲ返還スル義務ヲ負フト規定セルニ據リテ明カナリ然レトモ其得ル所ノモシハ必スシテ情状物タルヲ要セス例ヘハ前例快樂ノ如ク又權利ノ如キ是ナリ又其財産ヲ増加スヘキコトヲ要セス單ニ其財産ヲ負擔ヲ減スル如キモ亦利益ヲ受ケタルモノナリ



益ノ限度ニ關シ特別規定ヲ爲シタルニ過キサルニ非ズ。解除ノ場合トモ  
タ其趣旨ヲ異ニスルヲ以テ之ヲ本章ノ規定ヲ適用スルニ當リテ當然ナリ。蓋シテ  
第四 他人ニ損失ヲ及ボスコトヲ要スルハ、不當利得ヲ爲シタルノ趣旨ニ  
元來不當利得ヲ返還セシムル所以ナリ。公ニ不當利得ヲ爲シタルノ趣旨ニ  
出ツルニ在ラス。寧ロ其權利者ヲシテ損失ヲ被ラシメタルニ在リ。若シ夫レ何人  
モ損失ヲ被ル者ナカラシム其利益ヲ受益者ヨリ奪フニ必要ナシ。故ニ他人ニ損  
失ヲ及ボスヲ以テ一ノ條件ト爲シ以テ固ヨリ當然ナリ。所謂「利益ヲ得モ事ナ  
ク其損失トハ獨リ其財産ヲ減少スルヲ謂フ」ニ非ズ。其得ル利益ヲ得モ事ナ  
サリシ場合ヲモ亦之ヲ包含スルコトハ例ハ他人ノ使役セシトキノ如キハ  
其財産ヲ減少セタルモ其資金ヲ支拂ハシテ以テ得ル利益ヲ得セシタルモ  
ナルヲ以テ更ニ之ヲ得セシタルハ別ナリ。蓋シテ「利益ヲ得モ事ナク其  
以上ノ要件具ハルトキハ受益者ハ不當利得返還ノ義務アリ而シテ其範圍ノ廣  
狹責任ノ輕重ハ場合ニ依リ異ナリ。別左ニ之ヲ區別シテ説明スベシ。以テ之ヲ  
第一 一般ノ場合トモ、所謂「不當利得」ニ依リテ受益者ハ不當利得返還ノ義務アリ

此場合ヲ(甲)受益者ノ善意ナル場合(乙)受益者ノ惡意ナル場合ノ二種區別シテ説  
明スルハ、(甲)受益者ノ善意ナル場合ハ、此場合ニ於テハ受益者ハ返還當時ニ於テ其利  
利益ノ限度ニ於テ之ヲ返還スルノ義務ヲ負フ。而シテ不當利得ノ規定ニ  
據リ權利者ニ損失ヲ被ラシメタルノ目的ヲ有スルモ、利益ヲ受益者ハ受ケタル  
當時ノ利益ノ全部ヲ返還セシムルヲ以テ至當ト爲シ其利益ヲ現存スルコト否  
フ同フヲ要セタルカ如シ。然レドモ若シ此ノ如キ損失ヲ受益者ハ自己ノ財産  
ヲ支出セタルハ、加ラサルニ至リ。隨テ其取戻者ハ却テ法律上ノ原因ナク損失ヲ受  
益者ノ財産ヲ因リ利益ヲ受タルモノニシテ不當利得ノ原理ニ反スルモノナラ  
ス。若シ之ヲ善意ノ受益者ニ適用セハ甚テ苛酷ニ失却之ヲシテ不幸ノ淵ニ沈マ  
シムルノ虞アリ。例ハ其受ケタル利益ノ十分九以上ハ現ニ存在スルモノ仍ホ  
之ヲ返還セシムルヲ要ス。或ハ其受ケタル利益ノ全部ハ現ニ存在スルモノ仍ホ  
是レ本法ニ於テ利益ノ存スル限度ニ於テ之ヲ返還ノ義務ヲ負ハシメタル所  
以ナリ。故ニ例ハ馬百頭ヲ得タル其半數死シタルモノハ返還ノ時ニ於

[illegible]

六八九



再審ノ訴ニ關スル上告裁判所ノ裁判權左ノ如シ

(一) 棄却ノ決定 再審ノ訴カ條件ヲ具備セズ又ハ再審ノ原因ヲキトキ若シハ再審ノ訴ヲ提起スル旨ト得タル者ヨリ起シタル訴ハ之ヲ棄却スルハカラス其他受刑人ノ親屬ヨリ輕キ刑ヲ請フルハキモノトシテ再審ノ訴ヲ爲シタルトキモ亦同一ナリ而シテ再審ノ訴ヲ理由トシテ棄却セラレタルトキハ更ニ他ノ原因ニ基キ又ハ他ノ證據ヲ以テ再審ノ訴ヲ爲スコトヲ得ヘシ又ハ不適法ナリトシテ棄却セラレタルトキハ更ニ權利者ヨリ條件ヲ備ヘテ再審ノ訴ヲ爲スコトヲ得ヘシ

(二) 破毀ノ判決 再審ノ訴カ適法ニシテ原因アリト認メタルトキハ原告破毀シ公訴私訴ニ付キ再審ヲ爲スヘキコトヲ言渡シ其事件ヲ原裁判所ト同等ナル他ノ裁判所ニ移送スル第三〇七條刑ヲ言渡シタル判決ヲ破毀シ其確定力ヲ消滅セシムルノ必要ニ因ル又私訴ニ對シテハ單獨ニ再審ヲ許スモノモ公訴ニ付キ再審ノ訴アリタルトキハ私訴ニ付テモ再審ノ訴ヲ爲スコトヲ得ヘシ其訴カ理由アルトキハ同時ニ公訴私訴ノ判決ヲ破毀シ再審ヲ爲スヘキモノト

ス但同一審級ニ於テ公訴私訴ノ判決共ニ確定シタル場合ナルコトヲ要ス因テ次ニ移送ヲ受ケタル裁判所ニ於テハ通常ノ規定ニ從ヒ再審ノ裁判ヲ爲ス而シテ再審ノ裁判ニ於テハ更ニ他ノ證據ニ基キ被告人ヲ有罪ト認定スルコトヲ得ルモ確定判決ニ認メタル刑ヨリ重ク罰スルコトヲ得ストハ今日一般ノ通説ナルノミナラス判例ノ認ムル所ナリ此說ハ第三百一條ニ於テ再審ノ訴ハ中略被告人ノ利益ノ爲メ之ヲ爲ス云トアルハ刑ヲ言渡シタル判決ニ限リ再審ノ訴ヲ許スノ趣旨ニシテ撰造太利ニ於ケルカ如ク無罪ノ判決ニ對シ被告人ノ不利益ノ爲メニ再審ノ訴ヲ爲スコトヲ禁スルノ意ニ外ナラス第三百七條ニ於テハ通常ノ規定ニ從ヒ裁判ヲ爲スコトアリテ且控訴上告ニ於ケルカ如ク不利益變更ノ制限ナキ以上ハ再審ノ裁判ニ於テ確定判決ヨリ重キ刑ヲ言渡スモ妨ナシト信ス

死者ノ親屬ヨリ再審ノ訴ヲ爲シタル場合ニ再審ノ原因アリト認メタルトキハ其事件ヲ他ノ裁判所ニ移送コトナク原判決ヲ破毀ス第三〇八條此場合ニ判決ヲ破毀スルニ止ムル所以ニ死者ニ對シ通常ノ規定ニ從ヒテ審理裁判ヲ爲ス能

バナルカ故ナリ而シテ破毀ニ止ムルハ被告人ノ無罪ナルコトヲ表示スルモノ  
ナレハ無罪タルノ事實確定スルニ非サレハ此判決ヲ爲スヲ得サルナリ又受刑  
人ヨリ再審ノ訴ヲ爲シ其判決前ニ死去シタル場合ニモ死者ノ親屬ハ其訴ヲ承  
繼スヘク隨テ第三百八條ノ適用ヲ受クヘキモノトス若シ死者ニ親屬ナキトキ  
ハ受刑人ノ爲シタル再審ノ訴ハ當然消滅スルモノトス  
移送ヲ受ケタル裁判所ニ於ケル再審ノ判決ニ因リ無罪ノ言渡アリタルトキ又  
第三百八條ノ場合ニ於テ上告裁判所ニ於テ破毀ヲ言渡シタルトキ其者ノ  
名譽回復ノ爲メ其判決ヲ揭示スヘシ(第三〇九條)

### 第八章 裁判ノ執行

#### 第一章 刑ノ執行

第一 古今ノ立法ヲ見ルニ刑ヲ言渡シタル判決ヲ執行スルノ權ハ之ヲ刑事ノ  
裁判權ノ中ニ含マシムルモノアリ又之ヲ含マシムルモノアリ審判權ヲ觀  
念ハ執行權ヲ裁判權ノ内容ノ一トシ又近代ニ於テハ千八百五十三年ハ英國治

罪法ニ於テモ此觀念ヲ採用シタリ之ニ反シ佛國治罪法ハ三權分立ノ主義ニ基  
キ裁判ノ執行ハ裁判所ヲシテ爲サシムルニ止リ他ノ執行機關ニ任セ此佛國ノ  
制度ハ一方ニ於テハ刑事ノ裁判以外ハ俗務ニ服セシムルコトガキ故ニ  
裁判所ニ公平ナル裁判ヲ爲スノ地位ヲ保タシムルノ利アリ又一方ニ於テハ檢  
事ヲシテ刑ノ執行ヲ指揮セシムル時ニハ其執行ハ敏捷ナルノ便アリトス故ニ  
我刑事訴訟法ニ於テモ裁判ノ執行ハ之ヲ司法行政ノ處分ト爲シ裁判執行ヲ指  
揮監督スルハ之ヲ檢事ノ職務ニ屬セシメタリ第三二〇條裁判所構成法第六條  
刑法附則第一條監獄則第四條  
裁判ノ執行ハ指揮監督ヲ爲ス檢事ハ其刑ヲ言渡シタル裁判所ノ檢事又ハ上告  
裁判所ヨリ命ヲ受ケタル裁判所ノ檢事ナリ(第三二〇條第一項)刑ヲ言渡シタル  
裁判所トハ之ヲ文字通リニ解釋セサルヘカラス故ニ第一審ニ於テ刑ヲ言渡シ  
其控訴上告棄却セラレタルトキハ第一審裁判所ナリ又控訴審ニ於テ第一審判  
決ヲ取消シ刑ヲ言渡シ其上告棄却セラレタルトキハ控訴裁判所ナリ然レトモ  
第一審ニ於テ刑ヲ言渡シタル判決ニ對シ控訴アリ第二審ニ於テ控訴棄却ノ判

決アルモ拘留ヲ受ケタル被告人ハ刑事訴訟法第二百五十六條第二項ニ依リ控訴裁判所ノ所在地ノ監獄ニ在リ以テ便宜ノ爲メ裁判所構成法第八十三條第一項ニ依リ第二審ノ檢事ニ於テ第一審裁判所ノ檢事ニ代リ執行ノ指揮ヲ爲スヲ今日ノ實際トス又上告裁判所ニ於テ刑人言渡ヲ爲シタルトキハ被告人ハ下級裁判所所在地ノ監獄ニ在リ以テ上告裁判所ノ檢事ハ執行ノ指揮ヲ第二審又ハ第一審ノ檢事ニ命ジ其命ヲ受ケタル檢事ニ於テ執行ノ指揮ヲ爲スヘキモノト規定セリ

以上ノ如ク檢事ハ刑ノ執行指揮監督ヲ爲スモ止マテ執行ノ實行ヲ爲スモ六六行政廳ニ在リトス

第二 裁判執行ノ條件タルモノハ裁判ノ確定ナリ裁判確定スルハ直チニ之ヲ執行スルヲ原則トス(第三一七條第三一九條第一項)我刑事訴訟法ハ刑ノ執行ノミニ付テ其規定ヲ設ケ無罪訴訟不受理ノ判決ニ對スル執行ノ規定ヲ設ケス是レ勾留ヲ受ケタル被告人ニ對シ此等ノ判決確定スルモ執行ヲ爲スヘキ事項ナキヲ以テナリ然レトモ被告人勾留ヲ受ケタルトキハ右判決確定スル結

果トシテ被告人放免ノ執行ヲ爲ササルヘカラス此放免ノ執行モ亦無罪訴訟公訴不受理ノ判決確定シタル後直チニ之ヲ爲スヘキモノトス又證人鑑定人通事ニ對スル罰金ノ決定ニ付テモ法律ハ執行ノ規定ヲ爲ササレトモ判決ノ執行ト同一ノ執行ニ出ルノ外ナキナリ

刑ノ執行ハ判決確定後直チニ之ヲ爲スヲ原則トスルト雖モ次ノ例外アリ

(一) 此刑ノ執行ハ判決確定後直チニ之ヲ爲スヲ得ス(第三一八條又懷胎ノ婦女ニ對シ死刑ヲ執行スルニハ分統後一百日ノ猶豫ヲ置カサルヘカラス刑法第一五條立法上ヨリ觀察スレハ死刑及ヒ自由刑ニ於テハ被告人懷胎ノ場合ノ外精神病其他ノ疾病ニ罹リタル場合ニハ刑ノ執行ヲ猶豫スルヲ至當トス此場合ニ於テ刑ヲ執行スルモ刑ノ目的ヲ達シ得ヘキモノニ非サルナリ

(二) 罰金科料ノ執行ニハ多少ノ日時ノ猶豫アリ(刑法第二七條第三〇條)是レ此刑ノ性質ヨリシテ然ラサルヲ得サルモノトス

右ノ例外ヲ除ク外ハ執行ヲ停止スル場合ナシトス故ニ自由刑ノ確定判決ヲ受ケタル者ニ對シ豫審判事其他罪ニ付テ勾留狀ヲ發スルモ刑ノ執行ノ障害ト爲

ルコトナシ蓋シ勾留ハ豫審手續ニ附從スルモノナリシテ獨立ノ地位ニ非ズ豫審  
ヲ爲スニ當リテハ必ズ勾留ヲ爲ササルヘカラサルモノナリ非ズ此點如ク附從  
性質ヲ有スルモノナリ蓋シ勾留ナル刑ノ執行ヲ妨ケラルルコトナキハ當然ナ  
リトス今特種ノ執行ニ關シテハ前記ノ如ク豫審手續ニ附從スルモノナリ  
刑ノ執行ハ之ヲ嚴格ニ爲スルニテハ其ノ妨ケアルカ故ニ自由刑及罰金刑ノ執行ハ之  
ヲ分別シテ執行スルヲ得ル故ニ刑ノ執行ニ中斷中止ナルモ妨ケレハ此點合  
意判決ノ執行ハ民事訴訟法ニ從フ(第三三三條)ハ被告人辯護人組合ハ其  
執行ニ對シテ

第二章 死刑ノ執行

死刑ノ執行ハ第三十三條ニ依リ司法大臣ノ命令ヲ受ケテ執行スルヲ得  
ル依テ刑事訴訟法第三百十八條ニ於テ死刑ノ言渡確定シタルトキハ檢事ヨリ  
速ニ新選記帳官司法大臣ニ提出スルハ其ノ執行ヲ觀望セ得新司法大臣ノ命令  
特ツヘテ所以司法大臣ハ特種ノ奏請ヲ又ハ上告裁判所ノ檢事ヲシテ非常止  
告再審ノ訴ヲ爲サシムル權ヲ有スルカ爲メニ司法大臣ハ死刑ノ言渡シテ

新

死刑ノ執行ヲ觀望スルハ非常止告ハ其ノ執行ヲ命令スル司法大臣ヨリ命令スルカ爲メ  
三日內ニ其執行ヲ爲スルニテ其執行ノ命令ニ對シテ豫選記帳官司法大臣ヨリ  
死刑ノ宣告ヲ受ケテ豫選女偵探主眼トシテ其執行ノ命令ヲ三日內ニ執行  
行ハルモノナリ得ル此點合意ハ檢事ヨリ司法大臣ニ其旨ヲ上申シ其執行ヲ停  
止後三日內ニ其旨ヲ司法大臣ノ命令ヲ受ケ執行スルカ爲メニ死刑法第五條  
刑法附則第五條第三日內ニ雖モ大祀金匱開祭ノ月ハ死刑ノ執行ヲ得ル  
法第二四條刑法附則第四條ニ其間内其執行ヲ豫選記帳官司法大臣ヨリ  
死刑ノ執行ニ對シテ檢事書記之ヲ其旨ニ書記シ其始末書ヲ作リ立會審吏ト共ニ  
名捺印ス第三二一條刑法附則第一條乃至第三條)ハ其旨ヲ立會審吏ト共ニ

第三章 自由刑及財産刑ノ執行

自由刑及勾留ハ豫審手續ニ附從スルモノナリシテ獨立ノ地位ニ非ズ豫審  
ヲ爲スニ當リテハ必ズ勾留ヲ爲ササルヘカラサルモノナリ非ズ此點如ク附從  
性質ヲ有スルモノナリ蓋シ勾留ナル刑ノ執行ヲ妨ケラルルコトナキハ當然ナ  
リトス今特種ノ執行ニ關シテハ前記ノ如ク豫審手續ニ附從スルモノナリ  
刑ノ執行ハ之ヲ嚴格ニ爲スルニテハ其ノ妨ケアルカ故ニ自由刑及罰金刑ノ執行ハ之  
ヲ分別シテ執行スルヲ得ル故ニ刑ノ執行ニ中斷中止ナルモ妨ケレハ此點合  
意判決ノ執行ハ民事訴訟法ニ從フ(第三三三條)ハ被告人辯護人組合ハ其  
執行ニ對シテ

ヲ執行スルハナリ而シテ死刑及ヒ自由刑ヲ執行ヲ逃レタル者ニ對シテハ檢  
事ニ逮捕狀ヲ發スルヲ得第三一九條第二項此逮捕狀ハ罰金料ノ刑ニ處セラ  
レタル者ニ對シテ刑法第三十七條第三十條ニ依リ輕禁錮又ハ拘留ニ換刑スルヲ命  
令アリ之ヲ通レタルトキモ亦之ヲ發スルヲ得ヘシ蓋シ換刑ハ刑ノ執行方法  
ナリト雖モ既ニ之ヲ禁錮ニ換フレハ禁錮ノ執行ヲ通レタル者ト謂フヲ得ヘケ  
レムナリ

罰金ハ裁判確定ヲ以テ一月内ニ納完セシメ科料ハ十日内ニ納完セシム刑  
法第二七條第三〇條第四條是レ其期間内其執行ヲ猶豫セシムルモノナリ若  
シ之ヲ期間内ニ納完セサルトキハ換刑處分ヲ檢事ヨリ請求セサルヘカラス  
罰金科料訴訟費用沒收物件追徴金ハ檢事ニ命令ニ依リ徵集シ破毀タル廢棄ス  
ルモノ沒收物件ハ檢事之ヲ處分ス第三二〇條第三項第三項而シテ罰金科料ハ期  
間内ニ納完セザレバ檢事ハ換刑處分ヲ請求スルハ外ナク此事訴訟法ハ健ニ強  
制執行ヲ爲スルト雖ハナルモ檢事ニ命令ニ從ヒ訴訟費用追徴金ヲ納メザレハ  
檢事ヨリ其徵收ヲ執達スル命令民事訴訟法ハ強制執行ノ同命令方法ヲ以テ之

ヲ執行セシムルノ外ナキナリ刑事訴訟法之ニ關シテ規定ヲ設ケザルモ其強  
制執行ヲ許ササルノ意ニ非サルナリニ對シテ刑中並ニ各ホテ禁ニ爲メ  
刑務公關停止及權ノ執行ノ當然執行セザルニモシテ監視及刑法附則第二  
十一條以下ノ規定ニ依リテ之ヲ執行ス

第四章 執行ニ對ス

刑事訴訟法ハ刑ノ執行中疑義又ハ異議ヲ生シタルトシテ之ヲ執行府ノ判斷ニ任セス裁判所ニ於テ之ヲ裁判スルコトセリ即チ刑事訴訟法第三百二十二條ニ依レハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ其言渡ニ付キ疑義ノ申立又ハ其執行ニ付キ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ルハ一面シテ其裁判ハ刑ノ言渡ヲ爲セタル裁判所ニ於テ決定スルコトセリ裁判所ハ此場合ニ執行官府又ハ司法行政官府ニ責格ヲ以テ決定ヲ爲スル非ニ其裁判ハ均シテ裁判權ノ作用ニ出ツル處ニテ申立ニ刑ノ言渡ヲ爲セタル裁判所ハ法律ニノミ服従スル官府トシテ此決定爲爲此決定ニ對シテハ上級裁判所ニ抗告ヲ爲スコトヲ得ルモノトスルハ誤リ也

執行異議ハ申立ル檢事ノ刑ヲ執行ニ關スル指標ニ對シ異議ヲ唱フルモノナレハ受刑人ヨリ之ヲ申立タルヲ得ル者ニミシテ檢事ヨリ之ヲ申立タルヲ得ヌ又ハ疑義ハ申立ル判決主文ノ不明ヲ明カニスルモノナレバ檢事側ヨリ之ヲ申立タルヲ得ルカ如シト雖モ第三百二十二條ノ法文ニ於テ明白ニ刑ノ言被テ受ケタル者云云ト制限シタルヲ以テ檢事ヨリ之ヲ申立タルヲ得ヌ依テ檢事ノ判決主文ニ不明ノ慮アルモ自ラ之ヲ解釋シ其意見ニ從テ之ヲ執行セザルヘシトス而シテ檢事ニ於テ其意見ニ從ヒテ之ヲ執行開始シテ受刑人ハ執行ノ異議ヲ申立タルヲ得ルニ至ルモノトス又疑義異議ハ申立ニ關スル決定ニ對シ抗告ヲ爲スコトヲ得ル者ハ受刑人ノミニシテ檢事ハ此決定ニ對シ抗告ヲ爲スヲ得ヌ是レ今日判例ノ定ムル所ニシテ又第三百二十二條ノ規定ヨリスルモ斯ク解釋スルヲ正當トス

ナルモノナルモノ之ニ反シテ判決主文カ不明ナルハ實刑ノ執行不能ナリ  
ノナレハナリ又異議ノ申立ハ刑ノ執行カ許サヘキヲサルハ拘留スル之ヲ執行  
シタル場合及ヒ執行ノ方法ニ付キ不服アル場合等ノヲ爲スルハ例  
ハ既ニ期滿免除ヲ得タルハ刑ヲ執行スヘキヲ去強シ又未決留置ヲ類推  
ニ算入セスシテ執行スルハ不當ナリト主張スルカ如シ而シテ其刑ハ何人カ之  
ヲ執行スルヤヲ問ハス疑義異議ハ申立ヲ爲スヲ得ナレ故ニ警察官カ執行スル  
監視ノ執行ニ付テモ亦此申立ヲ爲スヲ得ナレ裁判所ノ之ヲ裁割セザルヘ然ラ  
ス成ハ疑義異議ノ申立ハ司法行政官府カ執行スル裁割無非ナレ之志ヲ爲ス  
得スト爲ス學說アレトモ法文ニ之カ區別ヲ設ケタルカ故ニ何人カ刑ヲ執行ス  
ルヤハ第三百二十二條ヲ適用スル標準タルモノニ非シテ唯刑カ通常裁判所  
ノ判決ニ依リテ言渡シタルモノトカ本條適用ノ標目タルモノトス  
疑義異議ノ申立ヲ受ケタル裁判所ハ判決主文ヲ解釋シテ其裁判所爲スル申立  
ヲ新ニ刑ヲ言渡スコトヲ得ル權利ヲ有スルモノニ非ス故ニ而判決主文ニ於テ刑  
期ヲ定メタルカ如キ場合ニハ其刑期ヲ決定シ以テ定ムル能ハスシテ執行スヘ





### 刑事訴訟法

刑事訴訟法は、犯罪の事實を認定し、被告人の罪を確定し、刑を宣告する手続を定める法律である。その目的は、犯罪の追及と被告人の権利の保障にある。

#### 第一章 刑事訴訟の目的と原則

刑事訴訟の目的は、犯罪の追及と被告人の権利の保障にある。その原則は、无罪推定、公平な裁判を受ける権利、辯護人の援助を受ける権利、黙秘権、自白の任意性、証拠の自由な採用、上訴の権利などである。また、刑事訴訟は、国家と被告人との対決であり、国家は強大な権力を有するが、被告人は個人の権利を擁護する立場にある。したがって、国家の権力の濫用を防ぐことが重要である。

法學士 豐島 直通 講述

## 刑事訴訟法

和佛法律學校

刑事訴訟法

刑事訴訟法

刑事訴訟法目次

緒論	一〇三
第一章 刑事訴訟法ノ意義	八六
第二章 現行刑事訴訟法ノ意義	八四
第三章 刑事訴訟ノ權利關係	一五
第四章 訴訟權利關係ノ發生、進行及ヒ終了ノ條件(訴訟條件)	二〇
第五章 訴訟條件ノ種類	二六
第六章 刑事訴訟法ノ法源	三二
第七章 刑事訴訟法ノ時ニ關スル效力	三五
第八章 刑事訴訟法ノ土地ニ關スル效力	四〇
第一編 訴訟主體刑事裁判所及ヒ當事者	四三
第一部 裁判權及ヒ裁判所	四四

第一章 裁判權ノ意義及種類	四四
第二章 通常裁判權ノ行使ノ範圍	四七
第三章 裁判所ノ地位	五三
第四章 裁判所ノ職員	五六
第五章 裁判所職員ノ除斥忌避及回避	六一
第一節 除斥ノ原因	六二
第二節 忌避ノ原因	七一
第三節 除斥及忌避ノ效力	七二
第四節 裁判所書記ノ除斥忌避回避	七七
第五節 忌避回避ノ手續	八二
第六章 裁判所ノ管轄	八六
第一節 事物ノ管轄	八九
第二節 職務上ノ管轄	一〇〇
第三節 土地ノ管轄	一〇三

刑事訴訟法

第三章 裁判所ノ管轄

第一節 事物ノ管轄

第二節 職務上ノ管轄

第三節 土地ノ管轄

一〇三

第四章 土地管轄ノ衝突

第七章 管轄ノ指定及移轉

第八章 裁判所ノ共助

第二部 當事者

第一章 當事者訴訟トシテノ刑事訴訟

第二章 當事者能力

第三章 訴訟能力

第三部 當事者ノ代理人及補助人

甲 檢事及其補助人

第一章 檢事ノ地位及ヒ其外部ノ構成

第二章 檢事局内部ノ構成

第三章 檢事局ノ管轄

第四章 公訴提起ニ關スル檢事ノ地位

第五章 檢事ノ公訴實行ニ關スル地位及ヒ

第五章 檢察各箇ノ權利	一六五
第六章 司法警察官	一六九
乙 被告人ノ補佐及代理人	一七五
第一章 辯護人	一七六
第二章 法律上代理人及被告代理人	一九二
第四部 訴訟主義(彈劾主義)	一九六
第二編 訴訟ノ目的物	二〇〇
第一章 公訴	二〇〇
第二章 職權訴追主義及勵行主義	二〇五
第三章 不變更主義	二〇九
第四章 實體的眞實發見主義	二二二
第五章 公訴ノ消滅	二二〇
第六章 數箇ノ公訴ノ關係	二六四
第七章 公訴ト民事事件トノ關係	二六七

## 第八章 私訴

二七〇

第一節 私訴ノ目的及其實體性	二七二
第二節 私訴ヲ公訴ニ附帶セシムル結果	二八七
第三節 私訴ノ消滅	二九三

## 第三編 訴訟行爲

三〇三

第一章 被告人ノ呼出	三〇四
第二章 被告人ニ對スル強制處分	三〇七
第一節 勾留	三〇七
第二節 逮捕狀	三一六
第三節 保釋及責付	三一七
第四節 勾引	三二二
第三章 物件ニ對スル強制處分	三二二
第一節 物件提出ノ義務	三二五
第二節 差押ノ意義及效力	三二八

第三節 差押ノ目的物	三二〇
第四節 搜索ノ意義	三二三
第四章 證據	三三五
第一節 證據ノ意義	三三五
第二節 證明ノ責任	三四九
第三節 自由心證主義	三五二
第四節 證據ノ種類	三五五
第五節 證人	三五八
第一第一款 證人ノ意義及ヒ能力	三五八
第二款 證人ノ義務及ヒ其制裁	三六四
第三款 供述ノ義務及ヒ其制裁	三六八
第四款 宣誓ノ義務及ヒ其制裁	三七〇
第五款 證人ノ呼出及ヒ其訊問ノ方式	三七三
第六節 鑑定人	三七七

第一第一款 鑑定人ノ意義	三七七
第二款 鑑定人ノ選擇及ヒ義務	三八三
第七節 被告本人ノ訊問	三八六
第八節 檢體	三八八
第九節 書證、物證、鑑定書	三九二
第五章 裁判書	三九五
第六章 口頭辯論主義	四〇四
第七章 公開主義	四一〇
第八章 公期日及ヒ期間	四一六
第四編 捜査、起訴及ヒ豫審	四二三
第一章 捜査	四二三
第一節 告訴及ヒ告發	四二九
第二節 現行犯	四三八
第二章 起訴	四六一



第三章 豫審

第一節 豫審の目的

第二節 豫審判事ノ地位

第三節 豫審判事ノ事件ヲ受理スル場合

第四節 豫審終結

第五編 公判

第十章 公判ノ準備手續

第十一章 公判ニ出廷スル人

第十二章 公判審理ノ範圍

第十三章 訴訟ノ指揮及ヒ法廷警察

第十四章 公判停止

第十五章 公判審理ノ順序

第十六章 證據調

第十七章 證據證明ノ範圍

四七一

四七五

四七八

四八〇

四八一

四九七

四九七

五〇五

五一〇

五一三

五二〇

五二六

五三六

第二節 裁判官ノ主權

第三節 被告人ノ權利

第四節 審判ノ公開

第八章 辯論

第九章 地方裁判所ノ特別手續

第十章 判決

第一節 判決ノ言渡及ヒ其條件

第二節 判決ノ種類

第三節 判決ノ内容

第四節 判決書及ヒ公判始末書

第十一章 關判席決

第一節 關判席決ノ條件

第二節 關判席決ニ對スル故障

五八〇

五七九

五七六

五七三

五七〇

五四五

五四二

五三二

五二八

第二款 裁判申立後ニ裁決ノ手續

五八六

第三款 裁判申立ノ效力

五九〇

第六編 上訴

五九四

第一章 總論

五九四

第一節 上訴ノ權利者

六〇〇

第二節 檢察官及被告人ノ上訴ノ效力

六〇七

第三節 上訴ノ取下

六〇九

第二章 控訴

六一一

第一節 控訴ヲ以テ攻撃シ得ヘキ裁判

六一三

第二節 控訴ノ申立

六一四

第三節 一分控訴

六一六

第四節 附帶控訴

六一九

第五節 控訴裁判所ノ審理

六二二

第六節 控訴ノ判決

六二六

第三章 上告

六三一

第一節 上告ノ理由

六三一

第二節 上告理由ノ擴張及ニ制限

六四〇

第三節 上告申立ノ方式

六四五

第四節 上告ノ審理

六四九

第五節 上告ノ判決

六五〇

第四章 抗告

六六二

第七編 非常上告及ニ再審

六六七

第一章 非常上告

六六七

第二章 再審

六七一

第一節 再審ノ意義及其條件

六七一

第二節 再審ノ原因

六七九

第三節 再審ノ訴ノ權利者

六八五

第四節 再審ノ訴ノ手續

六八八

第八編 裁判執行

六九二

第一章 刑の執行

六九三

第二章 死刑の執行

六九四

第三章 自由刑及び財産刑の執行

六九七

第四章 執行ニ對スル疑義及ヒ異議ノ申立

六九九

第五章 刑ノ執行ノ消滅原因

七〇二

第六編 非常災害ノ再審

七〇六

第四章 證書

六六一

第一節 證書ノ種類

六五〇

第二節 證書申立ノ方式

六四八

第三節 證書提出ノ期間及ビ附屬

六四〇

第四節 證書ノ撤回

六三一

刑事訴訟法目次

六三一

雜 錄

○外國貿易月表抄 大藏省ノ調査ニ係ル七月中輸出入品價額別及ヒ輸出  
入金銀價額別左ノ如シ本月二十四日官報

輸出入品價額國別表

輸 出

輸 入

計

亞細亞洲	五三三〇、八一九、二一〇	三、九四七、七五二、四七〇	九、二六八、五七一、五九〇
支 那	七三三、九〇六、八五〇	六、三八三、六三〇、八〇〇	七、一七五、三七六、五〇
英領印度	二、四三三、四九四、八二〇	一、二七四、五五七、〇〇〇	二、五六〇、九五〇、五二〇
香 港	五二、八五五、六二〇	一、四六〇、一六〇、四三〇	一、五一三、〇一六、〇五〇
佛領印度	二二、八九七、一八七〇	一、二一五、三九九、六〇〇	一、四四四、三七一、四七〇
露領亞細亞	三、七五二、五九八〇	一、二三五、八九〇、八九〇	一、五八七、三八六、八五〇
露領印度	八七、二九五、九七二〇	一、五二〇、八六四、五〇〇	一、〇三五、〇四六、一五〇
韓 國	一、五八九、六三二、一九〇	五、五三三、九八八、八五〇	七、一二五、五二〇、二〇〇



總計

通計

其他諸國

不詳

合計

輸出入金銀價額國別表

輸出入

金銀及金銀幣

金銀及金銀幣

金銀及金銀幣

金銀及金銀幣

金銀及金銀幣

金銀及金銀幣

金銀及金銀幣

金銀及金銀幣

金銀及金銀幣

金銀及金銀幣

金銀及金銀幣

金銀及金銀幣

金銀及金銀幣

金銀及金銀幣

金銀及金銀幣

金銀及金銀幣

金銀及金銀幣

金銀及金銀幣

金銀及金銀幣

金銀及金銀幣

金銀及金銀幣

金銀及金銀幣

金銀及金銀幣

金銀及金銀幣

金銀及金銀幣

金銀及金銀幣

金銀及金銀幣

金銀及金銀幣

金銀及金銀幣

金銀及金銀幣

金銀及金銀幣

金銀及金銀幣

金銀及金銀幣

金銀及金銀幣

金銀及金銀幣

金銀及金銀幣

金銀及金銀幣

金銀及金銀幣

金銀及金銀幣

金銀及金銀幣

金銀及金銀幣

雜 報

通 計

七〇五〇・二九・一二〇

一七七〇・八一・八二〇

八八二・一一〇・九四〇

其他諸國

三三・一四八・九〇〇

六七・九三九・五〇〇

九一〇・八八・四〇〇

不 詳

三三・三三二・三七〇

五二・四六四・九八〇

八五・七八六・三五〇

合 計

三六〇・二八一・九二〇

五九七・五・一七八・四七〇

五五七・七七・九九〇・三九〇

輸出入金銀價額國別表

	輸 出		輸 入	
	金貨及金塊金	銀貨及銀塊金	金貨及金塊金	銀貨及銀塊金
英 國	五〇・〇〇〇・〇〇〇	一・一・一・一	五三・〇〇〇・〇〇〇	三・五〇・三七・二六〇
支 那	四九・五・〇〇〇・〇〇〇	八七・四六〇・八三〇	五三・〇〇〇・〇〇〇	二六・六六〇
香 港	九三・〇〇〇・〇〇〇	一五六・〇〇〇	五八四・五三〇・八〇〇	
滿 洲	一〇・一・四六・三六〇			
朝鮮	一・一・七・四〇〇	三六・三・二六〇	三・二八・九・八三・三八〇	八六・〇〇〇・〇〇
菲律賓				
暹羅				
馬來半島				
北米合衆國	四七・七・三・七・四〇〇	一九・一・二六・四・五〇〇	三・三九・七・三・五・六・一〇	三五・八・九・九・八・二六〇
通 計				

◎生徒募集廣告

○入學試驗 來ル九月二日、八日、十月二日各午前八

時ヨリ施行ス

○第二級編入試驗 來ル九月十九日午後一時ヨリ

施行ス

右志願者ハ前日マテニ申込ムヘシ、校則入用ノ向ハ二條郵便ヲ宛  
付スヘシ

八 月

和佛法律學校



(電話番町百七十四番)